

仙台版防災教育実践ガイド



平成 23 年度



平成 24 年度



平成 25 年度



平成 26 年度



平成 27 年度



平成 28 年度

仙台市教育委員会

目 次

はじめに	・ ・ ・	1
1 仙台版防災教育の基本的な考え方		2
2 「仙台版防災教育実践ガイド」の内容		3
3 仙台版防災教育 全体計画について	・ ・	3
4 仙台版防災教育における指導事項について	・	3
仙台版防災教育における指導事項		4
5 仙台版防災教育 各学年の年間指導計画作成の手順		6
6 仙台版防災教育 年間指導計画に位置付ける事項		7
7 仙台版防災教育 年間指導計画モデル	・ ・ ・	7
○ 津波による災害等が想定される地域の間指導計画モデル		
○ 大きな建物の倒壊による災害等が想定される地域の年間指導計画モデル		
○ 土砂崩れによる災害等が想定される地域の年間指導計画モデル		
8 仙台版防災教育 授業の実施手順	・ ・ ・ ・ ・	1 4
【参考】「日常生活や学習への適応及び健康安全」の内容の特質に応じた 「話し合い活動」の事前、事後等の一連の活動過程		
9 仙台版防災教育 授業実践例	・ ・ ・ ・ ・	1 7
【参考資料】	・ ・ ・	3 9
○ 仙台市立七郷小学校「防災安全科」 ・ 小学校学習指導要領 ・ 授業実践例		
○ 平成 28 年度仙台版防災教育研究推進取組発表校 実践発表資料から		
○ 単元配列表モデル		
○ 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の 学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）別紙		

はじめに

東日本大震災から、6年が経過しました。私たちは、この震災をとおして、防災教育の重要性と必要性を改めて認識させられました。そこで、本市の防災教育では、震災以降、児童生徒の自助の力と共助の力の育成に取り組んできました。

平成24年度には、全校に防災主任を配置するとともに、防災教育モデル校18校を中心として、全市的に新たな防災教育への取組を開始しました。平成25年度には、防災教育副読本「3.11から未来へ」を市内小中学校の全児童生徒に配付しました。また同年、仙台市立七郷小学校が文部科学省から研究開発学校の指定を受け、新領域「防災安全科」の研究を始めました（4年間の指定）。平成26年度には、仙台市で開催された国連防災世界会議の場において、本市の防災教育の取組を広く内外へ発信しました。平成27年度からは、防災教育のさらなる推進を目指し、研究推進取組発表校として、1年間に行政区ごと5～6校を指定し、平成32年度までに、市内すべての小中学校が、自校の取組について実践発表を行うこととしました。

そして、平成28年度、それまでの新たな防災教育から、名称を「仙台版防災教育」と改め、学校・地域の実態に応じた防災教育を実施しています。仙台版防災教育では、震災の教訓や記憶の風化の防止を踏まえつつ、児童生徒の「目指すべき姿」を明確にした防災教育年間指導計画を作成し、実践、検証していくことが重要です。そこで、各校において、児童生徒の発達段階に応じたより系統的な防災教育を推進することができるように、「仙台版防災教育実践ガイド」を作成しました。本ガイドでは、系統的な防災教育を実践するための指導事項や地域性に配慮した年間指導計画モデル、さらには、東日本大震災の教訓を生かした防災対応力の育成を図るための授業実践例などを掲載しています。

各校におかれましては、この「仙台版防災教育実践ガイド」の内容を参考にしながら、本市防災教育の充実に向けて、一層の工夫・改善に努めていただきますようお願いいたします。

平成29年3月

仙台市教育委員会
教育長 大越 裕光

1 仙台版防災教育の基本的な考え方

仙台版防災教育は、自分の命を守り、安全を確保する自助の力、そして災害の対応や地域の復興に協力し参画する共助の力を児童生徒に育むことを目指しています。仙台版防災教育では、防災対応力を育むために学校・地域の実態に応じて、各教科等の防災にかかわる指導内容を相互に関連付けた年間指導計画を作成し、教育活動を展開、効果を検証します。

○ 防災対応力の構成要素

防災対応力の基盤的となる構成要素は「知識」・「技能」・「態度」の三つです。それらは各教科・領域等において育まれて融合し、児童生徒の実践的な思考力や判断力、そして、臨機応変な行動力となります。

防 災 対 応 力 （ 防 災 の 力 + 災 害 対 応 の 力 ）

思 考	判 断	行 動
知 識	技 能	態 度
<ul style="list-style-type: none">・ 災害の種類や特徴、発生メカニズムや被害・ 過去の災害や伝承・ 自然環境や気象・ 災害防止や復旧・復興・ 建物の安全や耐震・ 仙台市や地域の特性と災害の発生・ 学校や地域での備え・ その他	<ul style="list-style-type: none">・ 危険の予測や安全のための判断・ 身の守り方や避難の仕方・ 初歩的な応急救護措置や AED 等の操作・ 生き抜く知恵と技能・ 情報を生かす方法・ 避難所設営補助・ 防災用具の基本的な操作・ 家庭での備え・ その他	<ul style="list-style-type: none">・ 強い心と冷静な行動・ 感謝や思いやりの心・ 自然愛護と生命尊重・ 他者とのかかわり・ 被災者の支援・ 教訓の伝承・ 夢や目標をもつ心・ 家庭や地域に役立つこと・ その他
教 科	特 別 活 動	道 徳 科
総 合	総 合	特 別 活 動

家庭・地域・関係機関との連携・協力・情報交換

※平成 29 年度「杜の都の学校教育」暫定版から

2 「仙台版防災教育実践ガイド」の内容

「仙台版防災教育実践ガイド」には、児童生徒の発達段階に応じて、体系的・系統的な防災教育を実施するための指導事項や標準的なカリキュラム、授業実践例などが掲載されています。各校が防災教育の年間指導計画を作成したり、防災教育に関する授業を行ったりする際に活用できる内容となっています。

3 仙台版防災教育 全体計画について

仙台版防災教育の全体計画作成に当たっては、次の内容に留意してください。

- 「杜の都の学校教育」で示している仙台版防災教育の全体像に合致しているか。
- 児童生徒の実態、地域の特性等に触れられているか。
- 教科・領域等との関連について記載しているか。
- 仙台版防災教育副読本の活用について記載しているか。
- 防災対応力の構成要素である「知識」「技能」「態度」に関して記載しているか。

4 仙台版防災教育における指導事項について

仙台版防災教育における指導事項（P 4・P 5）は、研究開発学校として文部科学省の研究指定（H25～H28）を受けた仙台市立七郷小学校の「防災安全科」の「内容の構成と項目」を基に整理しました。

指導事項は、現行の学習指導要領や学習指導要領解説に記載されている防災に関する内容等を、A～Fの六つに分類しています。A、B、C、Dは主に自助、EとFは主に共助にかかわります。また、六つの内容を20項目に細分化しています。

児童生徒の発達段階等に応じた指導の目標を設定したり、防災に関する指導を行う学年や教科等を確認したりする際に活用してください。

仙台版防災教育における指導事項

1 1～2

3～4

		地震や津波、大雨や強風、雷などについて知る。	大雨や強風	る。
A 災害等の 理解	【知識】	(1) 災害の種類や特徴	(生活、特活)	
		(2) 発生メカニズムや被害	地震や津波、大雨や強風、雷などによる危険について知る。	地震や津波、大雨や強風、雷などによる被害を理解する。
		(3) 過去の災害・伝承	地域に起こった災害を知る。	地域に伝わる災害の伝承、地域で起きた災害の被害の様子を知る。
		(4) 災害防止や復旧・復興（公助）	地域の人々が協力して防災に取り組んでいること、地域の災害復旧・復興に関する取組を知る。	関係機関による災害復旧や復興、防災の取組を理解する。
B 命を守る 方法	【知識】 【技能】	(1) 身の守り方や避難の仕方	危険から身を守る方法や避難の仕方、大人に助けを呼ぶ方法を知る。	災害等に対応した身の守り方や避難の仕方、119番通報の仕方を理解する。
		(2) 情報を生かす方法	家族の連絡先や住所や電話番号などの伝え方を知る。	家族と連絡を取り合う方法を理解する。
		(3) 応急手当の方法	軽いけがのときは傷口を水洗いすることを知る。	軽いけがのときの止血方法、AEDの設置場所を知る。
		(4) 生き抜く知恵と技能	水・電気・ガスの大切さを知る。	ライフラインと自分たちの生活とのつながりを理解する。
C 備え	【知識】 【技能】	(1) 家庭での備え	災害時の家庭内での約束事や役割分担などを理解する。	家庭での設備や物質、食料に関する備えを調べ、大切さを理解する。
		(2) 学校や地域での備え（公助）	地域の避難場所や「子ども110番の家・店」などを知る。	学校の備蓄や地域にある防災に役立つ設備について調べ、災害時への備えを理解する。
D 予測・判断	【技能】	(1) 危険の予測	通学路での災害等の危険を考える。	学校や家庭、地域での災害等の危険を考える。
		(2) 安全のための判断	通学路での災害等の危険を避けるためどのように行動するかを考える。	学校や家庭、地域での災害等の危険を避けるためどのように行動するかを自分で考える。
E 支援者の 基盤	【態度】	(1) 強い心と冷静な行動	どんなときでも頑張る心を持ち、大人の指示をよく聞いて行動しようとする。	困ったときにも投げ出さない心を持ち、周りの様子や指示に応じて行動しようとする。
		(2) 感謝や思いやりの心	地域の防災や安全のために見守ってくれる人たちに感謝の気持ちを持ち、友達や周りの人に親切にしようとする。	お世話になっている地域の方に感謝の気持ちを持ち、友達や下級生に対して親切にしようとする。
		(3) 自然愛護と生命尊重	自然の不思議や美しさを感じ取ろうとするとともに、生き物に優しくしようとする。	自然の美しさやすばらしさを感じ取ろうとするとともに、命あるものを大切にしようとする。
		(4) 他者との関わり	自分の思いを相手に伝え、友達や近所の人たちと関わろうとする。	互いに思いを伝え合い、地域の行事などに参加して周りの人とつながろうとする。
F 社会貢献	【態度】	(1) 被災者の支援	人の役に立ちたいという気持ちを持って行動しようとする。	ボランティア活動について知り、自分たちにできることを考えようとする。
		(2) 教訓の伝承	学校で学んだ防災のことを家族に伝えようとする。	学校で学んだ防災のことを家族や地域に伝えようとする。
		(3) 家庭や地域に役立つこと	身の回りの人のために役立とうとする。	家庭のために役立とうとする。
		(4) 夢や希望	ルールや決まりを守り、安全に生活しようとする。	防災の意識を持って安全・安心な生活をしようとする。

※ () は関連が考えられる教科等です。

5～6年

<p>解する。</p> <p>(自然と社会)</p>	<p>と人々の生活や産業との 関係を理解し、起こり得る自然災害を予想する。</p> <p>(社会)</p>	<p>(1) 災害の種類や特徴</p>	
<p>6年で地震と津波)</p> <p>(5年で気象、 (理科)</p>	<p>科学的な知識を生かして、自然現象と災害を関連付けて状況を判断する。</p> <p>(数学、理科)</p>	<p>(2) 発生メカニズムや被害</p>	A 災害等の 理解
<p>東日本大震災や過去の災害の被害の様子、伝承を理解する。</p> <p>(社会、理科)</p>	<p>ら 資料を用いて調べ、自然と人間との関わりについて</p> <p>社会、</p>	<p>(3) 過去の災害・伝承</p>	【知識】
<p>取組を理解する。</p> <p>(社会)</p>	<p>つし 域に応じた防災対策の在り方を考える。</p> <p>(社会、理科)</p>	<p>(4) 災害防止や復旧・復興(公助)</p>	
<p>災害等やその場の状況に応じた身の守り方や避難の仕方を理解する。</p> <p>(体育、特活)</p>	<p>自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じることを理解し、対応と備えを理解する。</p> <p>(保健体育)</p>	<p>(1) 身の守り方や避難の仕方</p>	
<p>災害時の心の変化と行動、災害時に必要な情報と入手の仕方を理解する。</p> <p>(社会、理科)</p>	<p>災害心理を理解し、正しい情報入手とその信頼性の吟味の方法を理解する。</p> <p>(技術)</p>	<p>(2) 情報を生かす方法</p>	B 命を守る 方法
<p>出血や打撲をしたときの簡単な手当の仕方、AEDの機能を理解する。</p> <p>(体育)</p>	<p>心肺蘇生、AEDの使用方法などの応急手当や負傷者搬送の方法を理解し、緊急時に判断して行動できるようにする。</p> <p>(保健体育)</p>	<p>(3) 応急手当の方法</p>	【知識】 【技能】
<p>ライフラインが止まったときの対処法を理解する。</p> <p>(家庭)</p>	<p>迅速で的確な情報提供のための観測装置や通信網、より安全性の高い建築物の設計・開発など、地震に備える科学技術について知る。</p> <p>(理科)</p>	<p>(4) 生き抜く知恵と技能</p>	
<p>家庭での設備や物資、食料に関する備えを調べ、工夫や必要性を理解する。</p> <p>(家庭、特活)</p>	<p>家の中や周囲の安全性、物資等の備え、家族の安否確認の方法などについて日常的に家族で話し合い点検を行う必要性を理解する。(家庭、特活、総合)</p>	<p>(1) 家庭での備え</p>	C 備え
<p>工夫や災害時への備えを理解する。</p> <p>(社会)</p>	<p>「減災」の視点を理解する。</p> <p>(社会、特活、総合)</p>	<p>(2) 学校や地域での備え(公助)</p>	【知識】 【技能】
<p>場所や時刻など、様々な状況による危険を避けるためにどのように行動するかを自分で判断する。</p> <p>(特活、総合)</p>	<p>災害時に起こり得る危険を状況に応じて具体的に予測し、安全確保の手順や優先順位を整理する。</p> <p>(特活、総合)</p>	<p>(1) 危険の予測</p>	D 予測・判断
<p>困難に直面し、強い心を持ち、状況に応じて落ち着いて行動しようとする。</p> <p>(道徳、特活)</p>	<p>困難に直面しても負けない強い心を持ち、冷静な判断の基、目的の実現に向けて行動しようとする。</p> <p>(道徳)</p>	<p>(1) 強い心と冷静な行動</p>	
<p>お世話になっている方々に感謝の気持ちを持ち、困っている人に対して親切にしようとする。</p> <p>(道徳)</p>	<p>こより、日 があることに感謝し、進んでそれに応え、 とする。</p>	<p>(2) 感謝や思いやりの心</p>	E 支援者の 基盤
<p>を感じよう もに、命を見つめ、自他の生命を尊重しようとする。</p> <p>(道徳)</p>	<p>とに、 続性や有限性を理解し、かけがえのない を尊重しようとする。</p>	<p>(3) 自然愛護と生命尊重</p>	【態度】
<p>互い り、地域の行事などに参加してつながりを持つ る。</p> <p>(特活)</p>	<p>中学生が地域の力として期待されていることを自覚し、地域で行われている様々な活動への参加を通して、共助の体制を築こうとする。(道徳、特活)</p>	<p>(4) 他者との関わり</p>	
<p>き めに自分たちにできることを考えて、支援しようとする。</p> <p>(図工)</p>	<p>災害が起こった地域の方々のために、被災経験やその後の学びを生かして、支援しようとする。</p> <p>(美術、英語、特活、総合)</p>	<p>(1) 被災者の支援</p>	
<p>して伝えようとする。</p> <p>音楽、道徳</p>	<p>震災やその後の復興過程の記憶や記録から、語り継ぐべき情報や思いを取り出し、自分たちの言葉で語り継いでいこうとする。(音楽、特活、総合)</p>	<p>(2) 教訓の伝承</p>	F 社会貢献
<p>地域のために役立とうとする。</p> <p>(道徳、特活、総合)</p>	<p>非日常の中でも自他の命を守り、地域社会の一員として他者との関わりや地域社会との関わりを積極的に持とうとする。(道徳、特活、総合)</p>	<p>(3) 家庭や地域に役立つこと</p>	【態度】
<p>防災を通して や希望を持って生きていこうとする。</p> <p>(社会、道徳、総合)</p>	<p>人生の目標を達成すべく、希望を持って、より良く生きようとする。</p> <p>(道徳、特活、総合)</p>	<p>(4) 夢や希望</p>	

5 仙台版防災教育 各学年の年間指導計画作成の手順

防災対応力は、教科等横断的な視点で育成していくものです。そのため、学校・地域の実態に応じて、各教科等の防災にかかわる指導事項を相互に関連付けた自校の年間指導計画の作成が求められます。

作成の手順は、次のとおりです。

ステップ1 学校・家庭・地域等の実態を把握する

学区内の地理、自然等の環境を把握するとともに、地域の教育資源等を押さえます。

また、協働型学校評価の過程で収集した情報や各種調査等の結果などから、〈児童生徒〉〈家庭〉〈地域〉の実態や課題について、防災教育の観点から整理します。

ステップ2 防災教育のねらいを明確にする

実態把握の結果を踏まえ、学校として防災教育のねらいを明確にします。そのねらいを踏まえ、P2・P3の「防災教育における指導事項」に基づき、重点的に指導する必要性のある指導事項を選択します。

ステップ3 指導事項について指導を行う学年や教科等を検討する

ステップ1・2を踏まえ、実際にどのような指導事項について、どの学年やどんな教科等で指導するか、P2・P3の「防災教育における指導事項」等を参照しながら検討します。その際、一つの指導事項に対して、複数の教科等が想定されている場合があることに留意してください。

学習指導要領や同解説に指導内容として記載されている指導事項については、当然、その教科において指導を行うこととなります。学習指導要領や同解説に、指導内容の例示が記載されていない指導事項は、関連する内容を指導できる教科等について検討します。

ステップ4 教科等間、学校行事等との関連を考慮して指導事項の配列を検討する

ステップ3で、指導事項としてリストアップしたものについて、教科等間、学校行事等との関連などを考慮し、指導事項の配列を考えます。指導事項をすべて網羅的に配列しようとせず、学校の実態に応じて、重点化、焦点化し、教科間のつながりを意識して指導計画を作成することが大切です。

ステップ5 防災教育の年間指導計画を作成する

ステップ1～4までの検討の結果を、年間指導計画の書式で表現します。書式に決まりはありませんが、教育指導課で提示している様式（仙台市教育センターHPからダウンロード可）を参考に、柔軟で実効性のある計画を作成してください。

作成上のワンポイントアドバイス

- ステップ1～5について、いったん学年等の小単位で行い、学年カリキュラムを作成した後、学年間の関係や指導時期等を整理し、学校全体の年間指導計画を作成するという方法が考えられます。
- 各学年の年間指導計画を構想する際に、単元配列表等（P.58・59 参照）を活用する方法もあります。

6 仙台版防災教育 年間指導計画に位置付ける事項

東日本大震災の教訓を生かした防災対応力の育成を図るため、特に次の事項について、各学年の年間指導計画に適宜位置付けることとします。

- 1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施
- 2 仙台版防災教育副読本の活用
- 3 東日本大震災の体験者からの講話等
- 4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施
- 5 復興ソングの継承

なお、これらの事項を取り上げた授業実践例を 17 ページ以降に示しましたので参考にしてください。

7 仙台版防災教育 年間指導計画モデル

年間指導計画は、「作成の手順」で示したとおり、学校の実態に応じて、防災教育のねらいを明確にして作成します。作成に当たっては、児童生徒の実態について職員間で情報交換を進める中で課題を共有することや、教科や教材、指導法等の検討を行うことをとおして、職員間の意識を共有することが大切です。また、このことが、指導の効果を高めることにもつながります。

各学校の自然環境及び想定される災害等に違いがあるため、このガイドでは、仙台市内の「津波による災害等が想定される地域」・「大きな建物の倒壊による災害等が想定される地域」・「土砂崩れによる災害等が想定される地域」等、それぞれの災害を想定した、三つの地域における小学校高学年及び中学校の年間指導計画モデルを例示しましたので参考にしてください。

【仙台版防災教育 年間指導計画モデル】

- 津波による災害等が想定される地域の小学校高学年及び中学校の年間指導計画モデル
- 大きな建物の倒壊による災害等が想定される地域の小学校高学年及び中学校の年間指導計画モデル
- 土砂崩れによる災害等が想定される地域の小学校高学年及び中学校の年間指導計画モデル

される自然災害等の

- ・大地震 ・大津波 ・大雨 増水 ・河川洪水 ・土石流（地すべり）
- ・土砂崩れ ・暴風 ・たつ巻 落雷 ・降ひょう ・大雪 ・なだれ 等

派生して発生する災害等の例

- ・建物の火災 ・森林火災 ・液状化 ・地割れ ・倒木 ・大きな建物の倒壊
- ・危険物の落下、散乱 ・交通網のまひ ・道路の遮断 ・ガス漏れ
- ・感染症の流行 ・異常発生（植物、動物、昆虫等） 等

なお、防災に関連する教科・単元を全て網羅するのではなく、重点的に取り組む指導事項を精選し、教科等間、学校行事等との関連を考慮して配列することや、全職員が「この指導事項は、この学年で重点的に行う」という意識を共有することが肝要です。

津波による災害等が想定される地域の 小学校高学年年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識	技 能	態 度		
学習内容例		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容		
月	領域	教 科	総 合	特 活	道 徳	
4	避難訓練（地震） 交通教室	・ふるさと復興 ルーム見学（学活） ・物の燃え方と空気 （理科）A（1）		・避難経路の 確認，登下校 の安全B（1）	大地震 大津波	・震災を忘れな い☆F（1）
5	故郷復興プロジェ クト① 引き渡し訓練 家庭訪問		大地震，大津波	・非常時下校 体制の確認， 中学校区共通 引き渡しカー ド使用B（1）	・大きな災 害と人間の 心の動き☆ E（4）	・日常生活に生 かすF（2）
6	全校一斉防災学習 授業日 野外活動	★防災人として の知恵（体育）～ けがの手当～☆ B（3）		大地震，大津波	・家族防災 会議を開こ う☆C（1）	
7	故郷復興プロジェ クト② P T A等との地区 巡視	・着衣水泳（体育） B（1） ・「希望の道」合唱 F（2）	・チャレンジ 子供防災モニ ター☆D（1）	・わが家の 防災カード の記入C（1）	・夏休み	・希望の詩☆ E（4）F（4）
8	加） 大雨，増水， 落雷，暴風	大川洪水，浸水，				
9		・台風と天気の変化 （理科）A（2）	・地震を乗り 越えようとし た先人の知恵 ☆F（2）			
10	大雨，増水， 河川洪水 大地震，大津波， 液状化	・流れる水のはたら き（理科）A（1）（2） ・大地のつくりと変 化（理科）☆A（2） E（3）	・「復興のた めに何がで きるか考え よう」E（4） F（1）（3）			
11	故郷復興プロジェ クト③ 避難訓練（火災） ※津波防災の日	・情報化した社会と わたしたちの生活 （社会）B（2）	津波，建物の火災			最後の言葉 E（3）
12	全校一斉 防災学習授業日 避難訓練（業間）	・わたしたちの願い を実現する政治（社 会）A（4）C（4）		・未来へつな ぐ☆F（2）（4）	・冬休みの 生活D （1）（2）	・郷土のために 行動する☆ E（2）
1			・復興のため にできること D（2）			
2		・わたしたちの生活 と環境（社会）☆ A（1）				・くじけないで 最後まで☆ E（1）
3	故郷復興プロジェ クト④	・これからの家庭生 活を見直そう（家 庭）☆B（4）		・仙台の災害 年表・復興年 表☆		・この命のかが やきをE（3） F（4）

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

津波による災害等が想定される地域の 中学校年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活 道徳	
	4	避難経路確認 合宿	・集団訓練（保体） B (1) ・情報の信頼性（技術） B (2)		・避難方法と 避難経路の確認 C (1) 大地震 大津波
5	学校防災の日①（避難訓練） 故郷復興プロジェクト①（あいさつ）	応急処置の方法 （保体）☆	大地震、大津波	・避難訓練 ・消防士さんからの講話 C (1) D	・地域あいさつと小中合同 ゴミ拾い活動 E (4) ・生きていることへの感謝 E (3)
6	中総体	・身近な地域の歴史（社会） C (2) ・心肺蘇生方法（保体） ☆ B (3)		・災害発生時の対応 B (1) D	
7	合唱コンクール 故郷復興プロジェクト② （星に願いを） リーダー研修会 （小・中合同）	・空を見上げて（国語） A (3) ・AEDの使い方 ☆（保体） B (3)		・災害時の安全な行動 D	・地域あいさつ運動と小中 合同ゴミ拾い活動 E (4) ・かけがえのない家族 F (3)
8	※地域の行事への参加 文化祭		大地震、大津波、大雨、 増水、河川洪水、浸水、 落雷、暴風、液状化 等	・リーダー研修会 ☆ D	
9	地域合同防災訓練 （地域・保護者・小学校）	・着衣泳（保体） B (1) ・古典に残る災害を読んでみよう ☆ A (3)	・モザイクアートづくり F (1)	・防災基礎知識講座（小学生、地域） D	★避難所開設の時、私たちにできること ☆ F (3) ・心に寄り添う ☆ E (4)
10	学校防災の日② （引き渡し訓練） 学区民運動会 避難訓練（火災）	地方自治と私たち（社会） ☆ C (3) 案内状の書き方（国語） E (3)	・防災マップづくり （地域） C (1) (2)	・避難訓練の意義 ☆ C (1) ・引き渡し訓練 C (1)	・地域あいさつ運動と小中 合同ゴミ拾い活動 E (4)
11	地域クリーン作戦 （地域） 故郷復興プロジェクト③	建物の火災	・メモリアル館訪問 C (2) ・マップ作成のための地域歩き C (2)	・巨大壁画づくり E (2)	・地域クリーン作戦、地域 あいさつ運動 F (3) ・生命尊重 E (3)
12	学校防災の日③ （考動議会）	震災文庫を作ろう（国語） E (3)	・考動議会（縦割り活動） D ・防災マップ調査結果発表会 D F (2)		
1	・復興展 （地域・保護者）	・大地の変化（理科） A(2)(3)B(4) ・快適な住まい方（家庭） ☆ C (1)	大地震、大津波、 液状化	・災害時の安全な行動について C (1)	★「復興への歩み」を語り 継ごう ☆ E (4) ★自分を守る D ・ともに生きる ☆ F (3)
2	・地域向け復興展 （地域・保護者）	・心身の機能の発達と心の健康（保体） ☆ B (1)			
3	学校防災の日④ （震災セレモニー） 故郷復興プロジェクト④			巨大壁画披露 F (2)	・地域あいさつ運動、小中 合同ゴミ拾い運動 E (4) ・あのときの経験を経て私は 今 ☆ F (4)

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

大きな建物の倒壊による災害等が想定される地域の 小学校高学年年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識	技 能	態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周道的・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	領域	教 科	総 合	特 活	
				道 徳	
4	関連行 避難訓練（地震） 交通教室 たてわり校外活動	物の燃え方と空気 (理科) A (1)	大地震、建物の倒壊、道路の遮断	・避難経路の確認、登下校の安全B (1) ・非常時下校体制の確認、中学校区共通引き渡しカード使用B (1)	・言葉にするまでの時間 E (4) ・日常生活に生かす F (2)
5	家庭訪問 引き渡し訓練 故郷復興プロジェクト①		・東日本大震災から学ぶ☆ D (1) (2)	・地域の一員として☆ F (3) 大地震	
6	全校一斉 防災学習授業日	・書き手の意図を考えながら新聞を読む（国語） F (2)	交通網のまひ	・地震に備えて C (1) ・落ち着いた行動を☆ E (1)	
7	故郷復興プロジェクト② PTA等との地区巡視	・着衣水泳（体育） B (1) ・「希望の道」合唱 F (2)		・夏休みを有意義に F (3) ・地域のリーダーとして F (3)	・朝飯前のボランティア☆ E (2)
8	（地域行事への参加）		大雨、増水、河川洪水、落雷、暴風、道路の遮断、倒木		
9	野外活動 大雨、増水、河川洪水	・台風と天気の変化（理科） A (2) ★防災人としての知恵（体育）～けがの手当～☆ B (3)			・ふるさとの音 F (3)
10	大地震、液状化	・流れる水のはたらき（理科） A (1) (2) ・大地のつくりと変化（理科） ☆A (2) E (3)			
11	故郷復興プロジェクト	・情報化した社会とわたしたちの生活（社会） B (2)	建物の火災		・おばあちゃんからもらった命☆ E (2)
12	全校一斉 防災学習授業日 避難訓練（業間）	・わたしたちを実現する政治（社会） A C		・家族とつながり☆ C (1) ・異学年と交流しよう D (2)	冬休みの過ごし方 D (1) (2)
1					・あと30分おくれたら☆ E (2)
2		・わたしたちの生活と環境（社会） ☆ A (1)			・くじけないで最後まで☆ E (1)
3		・これからの家庭生活を見直そう（家庭） ☆B (4)	東日本大震災から学ぶ☆ F (1) (3)		・この命のかがやきを E (3) F (4)

★：本ガイドに授業実践例が掲載 ☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

大きな建物の倒壊による災害等が想定される地域の 中学校年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周道的・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	領域	教科	総合	特活	
	関連行				
4	安全な登下校 避難経路の確認	・集団訓練（保体） B (1)	大地震、建物の倒壊、道路の遮断	・避難方法と避難経路の確認 C (1)	・一歩一歩力強く ☆ E (1)
5	集団下校の確認 引き渡し訓練 故郷復興プロジェクト①	・情報の信頼性（技術） B (2) ・応急処置の方法（保体） ☆	大地震、交通網のまひ	・引き渡し訓練 C (1) ・地域あいさつと小中合同ゴミ拾い活動 E (4)	・礼儀の大切さ E (1)
6	中総体 地域合同防災訓練 （地域・保護者・小学校）	・身近な地域の歴史（社会） C (2) ・心肺蘇生方法（保体） ☆ B (3)	・めざせエコ生 活 C (1) (2)	・災害発生時の対応 ☆ B (1) D ・防災クロスロードゲーム D	★避難所開設の時、私たちにできること ☆ F (3)
7	合唱コンクール 故郷復興プロジェクト②	・文字や形で伝える（美術） F (1) ・AEDの使い方 ☆（保体） B (3)		・夏季休業中の生活 D	
8	※地域の行事への参加 学習発表会		大雨、増水、河川洪水、落雷、暴風、道路の遮断、倒木		
9		・着衣泳（保体） B (1) ・古典に残る災害を読んでみよう ☆ A (3)		・災害発生時の対応 ☆ B (1) D	・心に寄り添う ☆ E (4)
10	球技大会 避難訓練（火災）	・地方自治と私たち ☆ C (3)	・ボランティアで心の輪を広げよう F (1) (3)	・避難訓練の意義 ☆ C (1)	・勤労の尊さ ☆ F (3)
11	地域落ち葉拾い（地域） 故郷復興プロジェクト③	・住まいの安全対策、災害への備え（技・家） ☆ C (1) ・祈りの形（美術） F (1)		・地域落ち葉拾い作戦、あいさつ運動 F (3)	・かけがえのない家族 F (3)
12		・震災文庫を作ろう（国語） E (3)		・冬季休業中の生活 D	・1.17から3.11へ ☆ E (4)
1		・大地の変化（理科） A(2)(3)B(4) ・わかりやすく伝えるデザイン（美術） F(1)	大地震、液状化	・災害時の安全な行動について C (1)	★「復興への歩み」を語り継ごう ☆ E (4) ★自分を守る D
2		・資料の整理、確立（数学） A (1) (2)			・ともに育つ ☆ F (3)
3	東日本大震災追悼行事 故郷復興プロジェクト④			・春季休業中の生活 D	・震災の教訓 F (2) ・約束 F (4)

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

土砂崩れによる災害等が想定される地域の 小学校高学年年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識	技 能	態 度		
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容		
月	領域	教 科	総 合	特 活		
				道 徳		
4	登下校指導 避難訓練（地震） 交通教室	・物の燃え方と空気 （理科）A(1) 火災		・気持ちの よいあいさ E(4) ・歩み出す 力強く☆ E(1)	・思いやりの心 で E(2)	
5	家庭訪問 故郷復興プロジェ クト①	・地域の宝物 ☆D(1)(2)		・災害時をく らすヒント☆ C(1)	・地域の一 員として☆ F(3)	・日常生活に生 かす F(2)
6	全校一斉 防災学習授業日 避難訓練、引き渡し 訓練	・書き手の意図を考 えながら新聞を読 もう（国語）F(2)		非常時下校体 制の確認、中 学校区共通引 き渡しカード 使用 B(1)	・家族防災 会議を開こ う☆C(1) ・落ち着いた 行動を☆ E(1)	
7	故郷復興プロジェ クト② 野外活動 PTA等との地区 巡視	・着衣水泳（体育） B(1) ★防災人としての 知恵（体育）～けが の手当～☆ B(3) ・「希望の道」合唱 F(2)		・夏休みの過 ごし方 F(3)	・地域のリ ーダーとし て F(3)	・自分の役割を きちんと果た す F(3)
8	（地域行事への参加）					
9	大雨、増水、河川 洪水、落雷、暴風、 倒木	・台風と天気の変化 （理科）A(2)			・わたしたちの ふるさと F(3)	
10	大地震、土砂崩れ	・流れる水のはたら き（理科）A(1) 大地のつくりと変 （理科）☆A(2) E(3)				
11	故郷復興 プロジェクト 避難訓練（火事）	・情報化した社会と わたしたちの生活 B	・地域の宝物 ☆F(2)(3)	・立ち上が れ！ぼくらの 復興プロジェ クト☆F(1)	・生命の大切さ ☆E(2)	
12	全校一斉 防災学習授業日 避難訓練（業間）	・わたしたちの願い を実現する政治（社 会）A(4)C(4)	森林火災	・家族とのつ ながり☆ C	・冬休みの 過ごし方 D(1)(2)	
1				大雪、なだれ	・だれかのため に E(2)	
2		・わたしたちの生活 と環境（社会）☆ A(1)			・支えられてい る命☆ E(1)	
3		・これからの家庭生 活を見直そう（家 庭）☆B(4)	東日本大震 災から学ぶ ☆F(1)(3)		・この命のかが やきをE(3) F(4)	

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

土砂崩れによる災害等が想定される地域の 中学校年間指導計画モデル

防災対応力の構成要素		知 識	技 能	態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教 科	総 合	特 活	
				道 徳	
4	安全な登下校 避難経路の確認	・集団訓練（保体） B (1) ・情報の信頼性（技術）B (2)	大地震、大雨、増水、河川洪水、落雷、暴風、倒木	大地震 ・避難方法と避難経路の確認C (1) ・地域ハザードマップをつくる C (1) (2)	・今を生きる大切さE (1)
5	避難訓練（予告無） 故郷復興プロジェクト①（あいさつ）	・応急処置の方法（保体）☆B (3) ・エネルギー変換に関する技術（技・家）A (2)	・過去の災害から学ぶD	・避難訓練☆D ・引き渡し訓練C (1) ・災害発生時の対応☆B (1) D ・災害時の安全な行動D ・危険箇所調べD ・夏季休業中の生活D	・ともに育つ☆E (3) ・地域清掃ボランティアでF (3)
6	中総体 地域合同防災訓練（地域・保護者・小学校）	・身近な地域の歴史（社会）C (2) ・心肺蘇生方法（保体）☆B (3)	・被災地から学ぶ（南三陸町）C (1) (2) D	・災害発生時の対応☆B (1) D ・引き渡し訓練C (1) ・災害時の安全な行動D ・危険箇所調べD ・夏季休業中の生活D	★避難所開設の時、私たちにできること☆F (3)
7	合唱コンクール 故郷復興プロジェクト②	・空を見上げて（国語）A (3) ・AEDの使い方☆（保体）B (3)	・被災地から学ぶ（南三陸町）C (1) (2) D	・災害時の安全な行動D ・危険箇所調べD ・夏季休業中の生活D	
8	※地域の行事への参加 文化祭				
9		・着衣泳（保体）B (1) ・古典に残る災害を読んでみよう☆A (3)	建物の火災、森林火災	・防災基礎知識講座（小学生、地域）D	・心に寄り添う☆E (4)
10	避難訓練（火災）	治と私たち（社会）☆C (3) ・九州地方～火山災害、土砂災害～（社会）A (1)	・災害時に中学生ができることF (3)	・避難訓練の☆D	・勤労の尊さF (3)
11	故郷復興プロジェクト③	・近畿地方～震災を乗り越えて～（社会）A (4) C (3) ・自然と人間（理科）A (2)	大地震、土砂崩れ、土石流	・地域清掃ボランティアでF (3)	
12			大地震、土砂崩れ	・冬季休業中の生活D	・かけがえのない家族F (3)
1		・大地の変化（理科）☆A(2)(3)B(4) ・天気とその変化（理）☆	大雨、大雷、なだれ、降ひょう、落雷、暴風	・災害時の安全な行動についてC (1)	・生命尊重E (3)
2		・心身の機能の発達と心の健康（保体）☆B 1			
3	故郷復興プロジェクト④			・3.11に思うこと ・春季休業中の生活D	・地域あいさつ運動、小中合同ゴミ拾い運動E (4) ・約束☆F (4)

★：本ガイドに授業実践例が掲載

☆：仙台版防災教育副読本との関連あり

8 仙台版防災教育 授業の実施手順

ステップ1 対象となる児童生徒の実態を把握する

- 地域の自然環境及び想定される災害等について、十分吟味します。
- 学習課題は、児童生徒の発達段階を考慮し、必然性や必要性のあるものにします。
、幼い 高齢者がいる の連絡のとり方や防災リュックの中身をどうするかなど、現実に応じた対応を考えることが大切です。また、海岸や河川に近い所で暮らす子どもたちにとっては、いざというとき、どのようなルートで、どのように避難すべきかを常に意識しておくことや、「てんでんこ」の考え方をどのように具体化するかなども課題となります。
- 児童生徒や保護者等への防災に関するアンケートを実施したり、教師の観察等による資料を蓄積したりして、児童生徒や家庭の実態をより具体的に把握します。
- 各学年の児童生徒の実態等を踏まえ、各学年で身に付けさせたい防災対応力を具体化します。

ステップ2 指導の目標を吟味する

授業を実施するに当たっては、教科等の目標・内容が、直接的に防災教育の内容・目標に関連しているかを確認します。

- 教科等の目標への到達を目指すことが、防災教育の目標に到達することになります。その際、防災としての目標を明確に意識して授業を行うことが大切です。
- 防災教育の目標への到達は間接的なものとなるので、その際には防災教育に関する題材や防災教育の目標に触れる学習の工夫が必要となります。

ステップ3 教材の選択(開発)、指導方法・形態等の検討を行う

- 関連する資料を収集し、学区内を防災の視点で実地調査します。また、専門家に話を伺ったり聞き取り調査を行ったりします。学年内で協力して事前調査を行うことが地域素材の教材化につながります。
- 事前調査の結果を基に、具体的に取り扱う内容を決め、どのような教材（仙台版防災教育副読本などの読み物教材、視聴型の映像教材、スライド教材、疑似体験型教材など）で指導事項を指導することが適切であるか検討します。授業で使用する補助資料も作成します。
- 発達の段階や児童生徒の体験等によっては、直接的に震災等の映像を取り上げず、防災教育に必要な要素として日常から留意させたい題材について重点を置いた教材の活用も検討します。
- 学級を単位として授業を行う場合に加え、学年や全校等での実施、朝や帰りに確保できる時間や、地域と学校間で連携して訓練を行う指導等についても検討しておきます。

ステップ4 指導と評価を行い改善の方向を検討する

- 防災教育は、学校としての一体的な取組が大切です。授業の実施内容や結果について、同一学年の学級間や学校全体で適宜情報を共有し、最新の災害や校内外の状況の変化にも対応していくため、年度途中からでも改善の方向を検討します。
- 1単位時間の授業においては、学習のプロセスをどのように評価するかが大切です。評価の視点や方法を十分検討します。

授業づくりのアドバイス

防災の授業は、主体的な学びの授業をつくるのが児童生徒の自助と共助の力を育むことにつながります。

ここでは、児童生徒の学習過程を示しました。

なお、学習評価については、授業に加え、普段の学校の様子や家庭・地域での児童生徒の様子を把握して行うことが大切です。

主な活動内容

問題に出会い、課題を設定する

- 地域を取り上げた資料や実生活に関わる問題に出会い、興味・関心を持つ。
- 問題場面を自分のこととして捉える。「どうしてだろう」「もっと調べたい」という思いから、追究する学習課題を設定する(課題解決の必然性に気付く)。

情報を集め、自分の考えを持つ

主
体
的
・
対
話
的
で
深
い
学
び

- 課題解決に対する自分なりの予想を持つ。
- 資料・調査・体験などから、課題を解決するための情報を集める。
- 情報を整理し、日常生活やこれまでの教科等や防災での学び、体験や知識等を基に、自分や班の考えをまとめる。
- 「自分の考えをみんなに伝えたい」という思いを持つ。

意見を交流し、考えを深める

- 模造紙やKJ法などを用いて、意見の交流を行い、互いの考えを可視化し共有する。
- 意見の交流で得た様々な見方や立場を基に、自分の考えを深める。
- 意見は発表し合うだけでなく、共感したり疑問を持ったりする。

解決方法をまとめ、つなげる

- 共有した考えを集約したり精選したりしながらまとめ、よりよいもの(知識)にしていく。
- 自己の考えの変容を実感するとともに、これからの自分や集団での生活・行動につなげるための考えを持つ。

参考：学級活動

「日常生活や学習への適応及び健康安全」の内容の特質に応じた 「話し合い活動」の事前、事後等の一連の活動過程

防災教育を学級活動との関連で行う際、次の表のような一連の活動過程が考えられます。

日常生活や学習への適応及び健康安全

	課題の確認	教師が意図的、計画的な指導構想の下に次のようなことを行う。
事前 の 活 動	共通の問題（活動）の設定	① 年間指導計画において取り上げる題材についての学級の児童の問題の状況などを確認する。
	題材の決定	
	計画の作成	② 個々の児童が共通に解決すべき問題として授業で取り上げる内容を決めて、児童に伝え、問題意識を共有化させる。
	問題の意識化	③ 個々の児童が共通に解決すべき問題として「題材（名）」を決める。
		④ 導入、展開、終末の指導計画を作成し事前調査をしたり、資料を作成したりする（発達段階に即して児童の自主的な活動を取り入れるようにする）。
		⑤ 授業において取り上げる問題について自分の現状について考えたり、学級の現状を調べたりして問題意識を持つ。
本 時 の 活 動	話し合い活動	集団思考を生かした個人目標の自己決定
事 後 の 活 動		○ 自己決定したことを基に、個人として努力し、目標の実現を目指す。
		○ 努力の成果について振り返り、評価をする。

※小学校学習指導要領解説 特別活動編（文部科学省）P47から

9 仙台版防災教育 授業実践例

P.18～P.37 に掲載した授業実践例は、「6 仙台版防災教育 年間指導計画に位置付ける事項」の1～5を取り上げたものです。

1 学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 (P.18～ P.23)

実践例	校種	学年	指導事項の分類	関連する教科等	単元名
1	小	中	D (2)	学級活動	台風・大雨の災害から命を守る
2	中	1	D	学級活動	自分を守る～大地震に備えて～

2 仙台版防災教育副読本の活用 (P.24～ P.29)

実践例	校種	学年	指導事項の分類	関連する教科等	単元名
3	小	低	B (1)	学級活動	じしんがおこったらどうするの
4	小	高	B (3)	体育	防災人としての知恵～けがの手当～

3 東日本大震災の体験者からの講話等 (P.30～ P.31)

実践例	校種	学年	指導事項の分類	関連する教科等	単元名
5	小	中	C (1)	総合	「命を守る非常食」

4 学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施 (P.32～ P.34)

実践例	校種	学年	指導事項の分類	関連する教科等	単元名
6	中	3	C (2), F (3)	学級活動	避難所開設時, 中学生の私たちにできること

5 仙台市復興ソングの継承 (P.35～ P.37)

実践例	校種	学年	指導事項の分類	関連する教科等	単元名
7	中	2	E (4)	学級活動	「復興への歩み」を語り継ごう

年間指導計画に位置付ける事項

学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施

授業実践例 1 学級活動
小学校 中学年 D (2)

台風・大雨の災害から命を守る

1 授業について

- (1) 教科等のねらい
 - (2) 日常生活や学習への適応及び健康安全 カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- (2) 防災教育のねらい
台風や大雨に遭遇した時、危険を避けるためにどのように行動するかを自分で考えることができるようにする。

2 授業プラン作成に当たって

- (1) 児童の実態
児童が生活する地域には大きな河川が流れており、平成28年の台風接近時は、河川の増水、一部決壊により、避難勧告が出た地域もある。しかし、堤防が整備され川で遊ぶことが少なくなった児童にとって、河川はそれほど身近な自然として捉えられていない。また、台風や大雨により河川がどんな状態になり、どんな被害があるのか、具体的には知らない児童も多い。たとえ災害の危険が迫っていても、それを予測し、正しい判断により命を守る行動をとれるとは言い難い。
- (2) 指導事項の概要
台風や大雨によって起こりうる危険を予測し、どんな行動をとるべきかを身に付けさせる。その中で、河川の状態がどのように変わるのかを知ることにより、河川の近くで生活する児童に水害について正しい知識を持たせ、災害時の備えとする。
- (3) 指導の方向
台風や大雨の時に予想される危険を考えさせたい。また、台風による大雨で、七北田川がどんな状態になったのかを記録した映像資料を示し、河川には、自分たちが想定する以上の危険があることに気付かせたい。さらに、ハザードマップにより、昨年の台風での浸水地域や土砂崩れの箇所を確認し、どんな場所が危険なのかを考えさうえで、台風や大雨の時は、どんな行動を取ればよいのかを理解させたい。

3 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	○学習課題を知る。 台風や大雨の時、どんな危険があるのだろうか。 ・映像から、台風や大雨に関する経験や知識を思い出し、課題をつかむ。	・台風のニュース映像を示し、様々な危険を想起しやすくする。
展開	○台風や大雨の時の、予測される危険について自分の考えを持つ。 ・強い風で物が飛ばされる。 ・集中豪雨により、川の水が増える。 ・土砂くずれが起こる。 ・道路が通れなくなる。	【ワークシート】

○ペアで意見交換する。

【仙台版防災教育副読本 P.24】
いろいろな自然災害

○地域を流れる七北田川にも危険があることを知る。

・台風時の七北田川の映像や写真を提示し、増水や流れの速さ、周りの木々がなぎ倒されている様子から、危険を捉えさせる。

○ハザードマップから、浸水箇所と土砂崩れの箇所を確認し、どんなことに気を付けたらよいか話し合う。

・ハザードマップを見ながら危険に気づき、正しい行動を考えることができるようにする。

- ・川が曲がっているところや川幅のせまいところが浸水している。
- ・川から離れる。
- ・土砂崩れしそうなところに近付かない。

〈評価〉台風や大雨に遭遇した時、危険を避けるためにどのように行動するかを自分で考えることができたか。
(発言, ワークシート)

○河川の危険は雨が降っているときだけではないことを知る。

・ダム放流のサイレンを聞かせる。

- ・ダムの水を放流すると、増水する。
- ・雨が止んでも、上流（泉ヶ岳の方）で大雨が降っていると、急に増水することもある。
→西の空が暗いときは、上流で雨が降っているかもしれない。

【仙台版防災教育副読本 P.32】
災害から身を守るために
(自然のサインを見のがすな)

終末 ○本時の学習を振り返り、台風や大雨の時の危険と、自分の命を守るためにすべき行動についてまとめる。

・災害時は、危険を予測し、正しい判断をして安全な行動をとることが大切だということを知らせる。

4 板書計画

大雨・台風の被害から命を守る

台風や大雨の時、どんな危険があるのだろうか。

田 I
・浸水
七北田公園
・土砂くずれ

写真

写真

- ・強い風
ものが飛ばされる
- ・川の水が増えている
- ・土砂くずれ。
- ・道路が通れなくなる。

- ・風が強いとき
→建物の中に入る。頭を守る。
- ・台風や大雨のとき・サイレンが鳴っているとき
→川に近付かない。川からはなれる。
- ・土砂くずれの危険があるところ
→近付かない。

5 評価

台風や大雨に遭遇した時、危険を避けるためにどのように行動するかを自分で考えることができたか。

6 ワークシート

大雨・台風から命を守る

4年 組 (

(1) 台風や大雨のとき、どんな危険が考えられますか。

(2) 台風や大雨の時、どんなことに気を付けて行動しますか。

風が強いときは

()

台風や大雨のとき・() になっているとき

() の方の空が暗いときは

()

※ 台風や大雨のときの正しい行動が分かりましたか。 (◎ ○ △)

年間指導計画に位置付ける事項

学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施

授業実践例 2 学級活動

中学校 1 学年

D

自分を守る～大地震に備えて～

1 授業について

(1) 教科等のねらい

(2) 適応と成長及び健康安全 キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

(2) 防災教育のねらい

災害時に起こり得る学校内等での危険を状況に応じて具体的に予測し、安全確保の手順や優先順位を整理することができるようにする。

2 授業プランの作成に当たって

(1) 生徒の実態

東日本大震災から6年が経過し、中学生にとっては幼少期の体験となり、震災当時の記憶が薄らいできている状況である。熊本地震や東日本大震災の余震などがあり、地震に対する意識は、日頃から持っていると思われるが、改めて地震の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動と日常的な備えができるようにする必要がある。

(2) 指導事項の概要

仙台版防災教育副読本『3.11から未来へ』第4章「自分を守る」を活用し、大きな災害が起きたときに、自分の命をどのようにして守るかということについて考えさせる。東日本大震災で体験した災害が「恐ろしかった……。」だけで終わらせないようにするために、日頃から自分たちがどのように行動したらよいかを考えさせる。

(3) 指導の方向

学校生活で大地震が起こったときの行動について考えさせる。小学校から行ってきた避難訓練などを通して、行動については、おおむね把握しているものと思われるが、中学校の学校生活で起こりうる危険状況を踏まえ、安全確保の手順や優先順位について考えさせたい。また、それぞれの考えを共有する話し合い活動を通して、かけがえない自分の命の大切さを改めて見つめさせるとともに、どのように行動することが適切なのかについて考えさせたい。さらに、不意の災害時に命を守るための術を学ばせ、いざという時に集団の中で自他の命を守るための適切な行動ができるようにしたい。これらのことを通して、日頃からの備えこそが大切であることに気付かせたい。

3 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	○避難訓練を振り返る。 ・経験してきた避難訓練をイメージする。	・自分の命を守るための学習であることを知らせる。
展開	○学習課題を把握する 学校で大地震が起こったら、どのように行動することが適切か考えてみよう。(※震源：宮城県沖 10km 震度：5強 マグニチュード：7) ○休み時間、教室にいるときに宮城県沖を震源とする震度5強、マグニチュード7の地震が発生した場合、避難するまでに考えられる危険を考え、発表する。	・ワークシートを配付し、自分の考えを記入させ、発表させる。 ・休み時間なので教職員が常に

- ・蛍光灯が落下する。 ・窓が割れる。
 - ・机が倒れる。 ・ドアが開かなくなる。
 - ・避難経路に物が落ちている。
 - ・避難時に転んでいる人がいる。 など
- 地震の想定場面を具体的に考え、安全に避難するまでの手順を考えよう。
(生活班で話し合い、発表する)
- ・いつ、どこで、何をしているときに発生するか。
 - ・どんな危険が考えられるか。
 - ・どんなことに注意をするか。
 - ・優先順位をどうするか。どの手順で安全を確保するか。
 - ・指示は誰が出すのか。
- 各班で考えた内容をまとめ、発表する。
- ・共通点や相違点を確認しながら、避難するまでの行動について確認する。
- 安全に避難するために、どのように行動することが適切か考え、発表する。
- ・どこにいるときでも一人一人が自分で判断して避難できるようにする。
 - ・いろいろな場所で活動しているときに全員が落ち着いて行動できるようにする。
 - ・先生に頼らず安全を確保できるようにする。
 - ・誰かが指示を出さなくても逃げられるようにする。
 - ・授業以外の時間でも、主体的に避難できるようにする。
- いるとは限らないことに気付かせる。
- ・副読本 P.36 の写真を見ながら、自分たちが毎日どこでどんな行動をしているか进行い起こさせる。
 - ・状況を観察し、想定場面が他の班と重なっても構わないことを伝える。
 - ・発表ボードに記入させ、黒板に貼るようにさせる。
 - ・根拠も含めて発表させ、全体で考えを共有できるようにさせる。
- ・ワークシートに各自記入させる。状況により、班で意見を交換させる。
- ・必要に応じて、登下校時に関しても考えさせる。
- 〈評価〉
災害時に起こり得る学校内等での危険を状況に応じて具体的に予測し、安全確保の手順や優先順位を整理することができたか。
(発言、ワークシート)

終末 ○学習を振り返る。

自分の考えと友達の考えを比べ、どのように行動することが適切なのかを確かめる。

・日頃の行動や備えが大切であることにも気付かせる。

4 板書計画

学校で大地震が起こったら

どのように行動することが適切か

〈設定〉震源：宮城県沖

震度：5強 マグニチュード：7

(教室：休み時間) 【考えられる危険】

- ・蛍光灯が落下する。・窓が割れる。
- ・机が倒れる。 ・ドアが開かなくなる。
- ・避難経路に物が落ちている。
- ・避難時に転んでいる人がいる。

- ・自分で判断して避難する。
- ・全員が落ち着いて行動する。
- ・先生に頼らず安全を確保する。
- ・指示が出なくても安全に逃げる。
- ・授業以外時も主体的に避難する。
- ・部活をしているとき、身を守る。

5 評価

災害時に起こり得る学校内等での危険を状況に応じて具体的に予測し、安全確保の手順や優先順位を整理することができたか。

6 ワークシート

<学習課題>

学校で大地震が起こったら、どのように行動することが適切か考えよう。

★地震発生 【震源】宮城県沖 深さ10Km 【震度】5強 【マグニチュード】7

- 1 休み時間、教室にいると きたら、ど えられますか。
場 所 時間帯 その場の状況 発災時 に考えられる危険 避難時 に考えられる危険
- 教 室 休み時間 友達と話をしている
(先生はいない)

2 地震発生の“具体的な場面”を想定しよう！

いつ

月ごろ

に地震発生

どこで

【生徒の居場所】

何をして (その場の状況をできるだけ細かく)
いたか

発災時に考えられる危険

避難時に考えられる危険

えよ

時間

地震発生

発災時に気を付けること

避難開始

避難時に気を付けること

避難完了

- 3 安全に避難するためには、どのよ こ ること と し も書く)。

年間指導計画に位置付ける事項
仙台版防災教育副読本の活用

授業実践例3 学級活動
小学校 低学年 B(1)

じしんがおこったらどうするの

1 授業について

- (1) 教科等のねらい
(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全 カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- (2) 防災教育のねらい
学校の周りや家の周りの危険個所に気付き、地震が起こった時に危険から身を守る方法や避難の仕方を理解できるようにする。

2 授業プランの作成に当たって

- (1) 児童の実態
子供たちは、地震被害の状況をテレビやDVDで見ることはあるが、地震の大きな揺れに伴って起こる様々な危険に対して具体的なイメージがもてず、地震が起こったときの対処方法については意識していないと思われる。また、防災についても、日頃からの準備や訓練の大切さに気付いていないと考えられる。
- (2) 指導事項の概要
仙台版防災教育副読本（第4章1「ちゅうい！家のまわり 学校のまわり」P.30・31）を活用する。地震が起こった時に自分で自分の命を守るためには、どこにどのような危険が潜んでいるかを予測し、素早く適切な判断や行動をすることが大切である。低学年では、特に学校や自宅のある身近な地域について、具体的なイメージを持たせながら、状況に応じた避難ができるようにすることをねらいとした。
- (3) 指導の方向
地震が起こった時の、様々な場面での危険性や対処方法を話し合いながら、自分の命を守るためには、素早く適切な判断や行動をすることが大切であることを理解させ、日頃からの準備や訓練の大切さについても気付かせていきたい。
- 事前指導 ・地震による被害の写真を提示し、地震で大きな被害がでることを実感させ、家庭で地震が起こった時に注意することを話し合ってくるよう伝える。
- 事後指導 ・道徳（読み物資料等で生命を大切にしようとする心情を育てる）

3 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	○ 家の周りや学校の周りで地震が起こった時 か え ・物が落ちてくる。 ・家が崩れる。 ・物が動いてくる。 ・火災が起きる。 ・物が倒れてくる。	・自分の命を守るための学習であることを知らせる。 ・通学場面のVTRを見せ、ここで地震が起こったらどうなるかを考えさせる。 ・地震は、いつ、どこで起こるかわからないことをおさえる。
展開	○ 写真やイラストから、地震が起こった時に、どんな危険があるかを考える。 おちてくる 植木鉢・ガラス・看板 うごいてくる 自動販売機・車・自転車 たおれてくる 塀、自動販売機・電柱	・仙台版防災教育副読本のP.30・31の写真やイラストを見て、「おちてくる」「うごいてくる」「たおれてくる」と記載されたカードを使って三つの観点から分類する。 ・P.30のイラストの危険箇所に印を付けさせる。

○ 学校の周りの注意するところについて考える。

- ・物が落ちてきそうなところ。
- ・動いてきそうなものの近く。
- ・倒れそうなものの近く。
- ・道路・歩道橋・用水路 など

○ 自分の通学路において、もし地震が起こったらどこに避難するか、どのようにして身を守るかを考える。

- ・ガラス窓から離れる。
- ・塀や家の下から離れる。
- ・自動販売機や電柱など倒れやすい物から離れる。
- ・頭を守る。
- ・川の近くに行かない。(高い所に逃げる)
- ・広いところに集まり、しゃがんで、ゆれが納まるまで動かない。
- ・落ち着いて行動する。

・「町たんけん」が既習の場合は、その時の写真や絵地図を提示する。

・校地やその周辺にあるものを、具体的な名称で取り上げる。

(○○川, ○○山, ○○ビルなど)

・落ちてこない, 倒れてこない, 動いてこない安全な場所を考えさせる。

・どんな場所においても, 身を守るために必要なことを考えさせる。(副読本 P.31)

・エレベーターの中や, 乗り物の中にいるとき, 道を歩いているときについても対応を考えさせたい。

・ペアやグループで話し合い, 発表し合うなど児童が主体的に考えたり判断したりする学習活動を工夫する。

・実際の状況を想定して, 動作化させることも効果的である。

ランドセル こ な

(評価) 学校や家の周りの危険個所に気付き, 地震が起こった時に危険から身を守る方法や避難の仕方を知ることができた (発言・発表)

終末 ○学校の周りや家の周りいるときに, 地震が起こったときの, 自分がとるべき行動について

まとめる。(お) (う) (た)

・学習したことを友達や家の人と出かけた時に, 確かめたり調べたりしてみよう。

・「(お)ちてくる」「(う)ごいてくる」「(た)おれてくる」の言葉を使ってまとめる。

・慌てることなく, 自分のまわりを確認し, 素早く危険を判断して安全な場所に避難することを確認する。

4 板書計画

じしんがおこったらどうするの

(お)ちてくる

(う)ごいてくる

(た)おれてくる

写真

写真

ガラス
うえきばち
かんばん

じどうはんばいき
くるま
じてんしゃ

へい
じどうはんばいき
でんちゅう

きけん

・ものがおちてくる。

・ものがうごいてくる。

・ものがたおれてくる。

・いえがくずれる。

みをまもるために

「(お)ちてくる」「(う)ごいてくる」「(た)おれてくる」

ものからはなれ, あたまをまもる。

5 評価

学校の周りや家の周りの危険個所に気付き, 地震が起こった時に危険から身を守る方法や避難の仕方を知ることができたか。

年間指導計画に位置付ける事項
仙台版防災教育副読本の活用

授業実践例 4 体育（保健）
小学校 高学年 B (3)

防災人としての知恵～けがの手当～

1 授業について

(1) 教科等のねらい

G 保健 (2) けがの防止 イ けがの簡単な手当は、速やかに行う必要があること。

(2) 防災教育のねらい

けがをしたときの簡単な手当の仕方を理解できるようにする。

2 授業プランの作成に当たって

(1) 児童の実態

5年生では泉ヶ岳で野外活動が行われ、登山や野外炊飯などでけがをすることも想定される。しかし、この時期の児童は、けがをしたときは大人に手当をしてもらうことが主で、正しい対処方法を理解している児童は限られている。

そこで、自分でできるけがの手当にはどのようなものがあるかを知らせ、演習を通してその方法を理解させることが必要であると考え。児童が正しいけがの対処療法やとるべき態度を身に付けることは、安心して活動に取り組むことにもつながる。更に、災害時においてけがをした場合も、落ち着いて適切な行動をとろうとする態度を育てることになるものと考え。

(2) 指導事項の概要

けがをしたときは、けがの悪化を防ぐ対処として、けがの種類や程度などの状況をできるだけ速やかに把握し、処置することが必要である。それを踏まえて、自分でできるけがの手当にはどのようなものがあるかを理解させる。また、演習を通して、簡単なけがの手当の方法を理解できるようにする。

(3) 指導の方向

野外活動の内容から起こりうるけがについて考えさせ、万が一けがをした場合は、どのような行動をとればよいかを考えさせる。また、学校や家庭にいるときとは違うことから、簡単なけがの手当については、自分たちで応急処置をする必要があることに気付かせ、手当の方法を理解させたい。さらに、災害時においても、身の回りの物を活用しながら、自分たちでできる応急手当を行おうとする態度を育てたいと考える。

なお、指導に当たっては、養護教諭とのTTも想定したい。

3 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	○ 野外活動で起こりうるけがについて考える。 ○ 過去の野外活動でのけがのデータを知る。	・ 野外活動の内容を提示し、どのようなけがが起こりうるかを考えさせる。 ・ 実際に野外活動でどんなけががあったかを知らせ、課題を自分のこととして捉えられるようにする。

展開 ○本時の課題を知る。

けがの種類による対応の仕方を
知ろう。

○ 骨折やねんざ、切り傷、やけどをした
場合の応急手当の方法を知る。

○ 身の回りにあるもので、応急手当に
使えるものがないかを考える。

- ・骨折 添え木⇒段ボール・雑誌・傘
三角巾⇒レジ袋・ラップ
ーゼ⇒ハンカチ・タオル

やけど 道水⇒ペットボトルの水

○ 養護教諭の話聞き、応急手当をす
るときの注意点を知り、実演を見る。

○ グループごとに応急手当の演習を
する。

○ 手当の仕方を理解できたかを振り
返る。

終末 ○ 本時の授業で分かったことや気付
いたことを書く。

- ・野外活動だけでなく、災害時でも。
- ・みんなで協力して手当。
- ・普段からペットボトルの水やラッ
プの備え。

・まずは、自分たちで手当ができるか、けがの程
度を見極める必要があることを知らせる。

・①骨折②傷③やけどの手当について、「新しい
保健」(5.6年P24)を基に説明する。

・段ボール、レジ袋、ハンカチ、ペットボトルラ
ップなどを準備しておき、提示する。

・「仙台版防災教育副読本」(小学校 4.5.6年
P34)などを参考にさせ、身の回りにあるもの
を活用した応急手当の方法に気付かせる。

・養護教諭が教師をモデルに応急手当を実演し
ながら、注意点について知らせる。

・今回はグループごとに、骨折の手当のしかたに
ついて協力して演習を行うように指示する。

・資料(腕の骨折の手当)を配布し、手順を参考
にさせる。

・けがをしたとき、どんな行動をとればいいかに
ついて考えをまとめさせ、発表させる。

4 板書計画

防災人としての知恵 けがの手当について知ろう

〈予想されるけ

- ・ねんざ
- ・骨折
- 内容 ・切りきず
- ・やけど

今までの
けがデータ

骨折・ねんざの手当

- ① 変形がないか
- ② 冷やす
- ③ そえ木で固定
そえ木 ⇒ 段ボール
雑誌
三角きん⇒レジ袋
ラップ

切りきずの手当

- ① 水で洗う
- ② カーゼで保護
ガーゼ⇒ハンカチ
タオル

やけどの手当

- 服の上から水
水道水⇒ペット
ボトルの水

- かんたんなけがは自分たちで手当
・速やかに ・協力して
- 身の回りのもので工夫

5 評価

けがをしたときの簡単な手当の仕方を理解することができる。

防災人としての知恵～けがの手当～

5年 組 名前

○けがをしたときの手当の方法

けがの種類	手当の方法や工夫	振り返り
骨折 ねんざ	①	
	②	◎
	③	○
	そえ木の工夫⇒ () 三角きんの工夫⇒ ()	△
切りきず	①	◎
	②	○
	ガーゼの工夫⇒ ()	△
やけど	○	◎
	水道水の工夫⇒ ()	○
		△

○分かったことやふだんから準備したいこと

(けがをしたとき、どのように行動していきたいかについても書きましょう。)

7 資料（腕の骨折の手当～レジ袋を活用する場合）

(1) スーパーなどのレジ袋を用意します。

* 袋のサイズはやや大きめ（底の長さが30cmぐらい）がよい。あまり大きすぎると袋にひじがしっかりと直角に収まらなくなります。

(2) レジ袋のつり手の横に切り込みを入れて、底から約2cm残して切ります（手でも切れます）。

* 反対側は切りません。

(3) 骨折（ねんざ）した部分を固定します。2日分の新聞紙（同じ厚さであれば雑誌でもよい）で腕を包みこみます。

(4) 骨折した場所から、上下2つの関節をバンダナ、包帯や三角巾、シーツ、ネクタイなどでしっかり結び、固定します。

(5) 切り込みを入れた側から固定した腕を通し、骨折した腕のひじが、切っていない側の底の部分にすっぽりと入るようにします（指先は、切っていない側のつり手の部分の方に出します）。

(6) 切った側のレジ袋のつり手を骨折していない手で持ちます。

(7) レジ袋のつり手の部分に頭を通して首にかけます。

(8) 完成です。

年間指導計画に位置付ける事項

東日本大震災の体験者からの講話等

授業実践例 5 総合的な学習の時間

小学校中学年 C(1)(2)

「命を守る非常食」

1 授業について

(1) 教科等のねらい

(4) 問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てる。

(2) 防災教育のねらい

どのような食料が非常食に適しているかを理解することができるようにする。

2 授業プランの作成に当たって

(1) 児童の実態

震災をきっかけとして各家庭で非常食を備えるようになってきた。中学年の児童は、「非常食とは何か」をある程度知ってはいるものの、「どのような食料を非常食として備えておくよいか」についてはあまり分からず、「実際に自分の家で備えているか」の認識も曖昧であるといえる。

(2) 指導事項の概要

C(1)「家庭での備え」、(2)「学校や地域での備え」の中の非常食を取り上げる。

- ・大きな災害の直後はライフラインが止まり、調理や冷蔵保存ができなくなること
- ・調理が不要で、常温保存、長期保存できる食料を非常食として備えておくこと
- ・各家庭で3日～1週間分の非常食を備えておくことが大切であること

を取り扱う。その他、非常食を備える留意点として、ふだん使いの食料品の買い置き、賞味期限を考えての計画的な消費、家族構成に対応する食料等があるが、授業の構成と児童の発達段階によって取り扱うものとする。

(3) 指導の方向

中学年の児童の実態を考慮して、非常食への興味・関心を引き出し、各家庭での備えを確認するきっかけとしたい。授業では、導入で東日本大震災の体験者をゲストとして呼び、震災直後、食料の調達に苦労したことを話していただく。その後、小学校の備蓄倉庫にある非常食を調べる活動を行い、どのような食料が非常食に適しているかを考えさせたい。さらに、家庭の協力を得ることで、家族とともに自分の家の非常食を確認したり非常食となり得る食料を調べたりする活動に発展させる。可能ならば、非常食を実際に試食してみる活動も取り入れたい。

3 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	1 震災直後の食料調達の苦労を知る。 ・震災直後、電気やガス、水道が止まり、調理でき	・仙台版防災教育副読本 P.41 ・写真資料（避難所となった小

- なかった。電気の復旧には約1週間かかった。
- ・小学校には2500人が避難してきた。小学校には600人分の水と食料（クラッカー、アルファ米）しかなかった。
 - ・店や避難所には、食料を求めて多くの人が並んだ。
- 2 学習課題を設定する。

災害に備えて、どのようなものを 常食として用意しておくとういかに。

- 3 予想を立てる。
- ・電気が止まったら、冷蔵庫は使えないだろう。
 - ・水道が止まるかもしれないので、水も必要だ。
 - ・缶詰は、調理がいらぬのでよいと思う。
 - ・たしか、家にはアルファ米というのがあった。
 - ・カセットコンロがあれば、インスタントやレトルト食品も食べられる。

4 学校の備蓄倉庫にある非常食を調べる。

水、アルファ米、クラッカー、おかゆ、アレルギーフリー・カレーライス、羊羹

- 5 気 いたこと 疑問点を発表し合う。
- ・調理しなくても、そのまま食べられる。
 - ・場所は冷蔵庫の中でなかった。
 - ・種類があるけど、食べるものが限られている。
 - ・量はかなりあるが、みんなで何日分かな。
 - ・賞味期限とは何か。「2020年～月」と書いてある。あと～年も先まで食べられる。
 - ・甘いものもある。羊羹は食べたことがあるか。
 - ・「アレルギーフリー」とは何だろう。

6 学習を振り返る。

- 終末
- ・学校の備蓄倉庫の非常食だけでは足りない。
 - ・自分の家でも非常食を備えておく必要がある。
 - ・自分の家では、非常食を備えているだろうか。

- 学校に食料を求めて並ぶ人たち、食料を配付する様子)
- ・東日本大震災の体験者をゲストとして呼び、震災直後、食料の調達に苦労したことを話していただく。

- ・調理できない状況を想定させて、理由とともに予想させる。
- ・備蓄倉庫にある非常食の箱や中身を観察できるように準備しておく。以前より増えたものの、限りがあることを押さえる。
- ・調理、保存場所、保存期間の視点に沿ってまとめていく。アレルギー対応食などにも気付けたい。
- ・羊羹などは食べ慣れていないので、スイーツの缶詰などもあることを紹介する。
- ・参考資料：「家庭用食料品備蓄ガイド」（農林水産省）
〈評価〉どのような食料が非常食に適しているかを理解できたか。
(発表、ワークシート)

- ・各家庭の非常食を調べる活動を学年だより等で事前にお願ひしておく。

4 板書計画

さいがいにそなえて、どのようなものを「非常食」として用意しておくとういかに。

<p>〈予想〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気も水道も止まる ・れいぞうこが使えない ・水 ・かんづめ ・アルファ米 	<p>〈結果〉</p> <p>学校のびちくそうこ 〈非常食〉</p> <p>飲料水、アルファ米、 クラッカー、おかゆ、 カレーライス、ようかん</p>
--	---

震災時の写真
(並ぶ人たち)

震災時の写真
(食料配付)

電気やガス、水道が止まる
(3日～1週間分)

- ちょうりしなくてもよい
- れいぞうこで ひやさなくてもよい
- 長くもつ (賞味期限)
- そのほか
アレルギーたいおう、あまいもの
カセットコンロ→インスタント食品

5 評価

どのような食料が非常食に適しているかを理解できたか。

年間指導計画に位置付ける事項

学区内等の学校同士や保護者、地域との合同による防災訓練の実施

授業実践例 6 学級活動
中学校 2 学年 C (2), F (3)

避難所開設時、中学生の私たちにできること

1 授業について

- (1) 教科等のねらい
(2) 適応と成長及び健康安全 キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- (2) 防災教育のねらい
避難所開設の際、地域社会の一員として、自分たちができることについて積極的に考えることができるようにする。

2 授業プランの作成に当たって

- (1) 生徒の実態
東日本大震災より 6 年が経過し、今後入学する生徒は、震災時未就学となる。当然、震災当時の状況や避難所での生活の記憶も少なく、災害発生時の避難所がどのような状況になるのか予想し、行動を判断することは年月が経つにつれ困難となることが予想される。震災発生時においても被災状況に違いが見られた。被害の少なかった地域においては、震災当時の避難所の状況を紹介し展開することが必要と考える。
- (2) 指導事項の概要
導入では、仙台市防災教育副読本「3・11 から未来へ」の P.50～51「地域の一員として」を活用し、地域防災リーダーの存在とその活動の様子を紹介するとともに、仙台市内の中学生が、現在、地域でどのような活動を行っているのかをその意義も含め紹介する。
その後、「避難所開設時、中学生の私たちにできること」をテーマに、KJ法を用いて意見交換を行い、その結果を発表し、考えを集団で共有する。
- (3) 指導の方向
「授業のねらい」にも記載したとおり、中学生に対する地域からの期待は想像以上に大きいことを伝えたい。可能ならば学区内の SBL（仙台市地域防災リーダー）の方々をゲストティーチャーとして招き、震災当時の様子や地域の一員として中学生に期待すること等を話していただくと効果的であると考え。
意見交換においては、様々な視点から避難所生活の地域の人々を支える内容が出てくると考えられるが、少数の意見も大事にして生かしていきたい。KJ法は班内の意見の中で多数を占める意見やその場をリードしている人の意見だけでなく、少数派の意見や強く主張できない生徒の意見も公平に採用されうるという利点があり、今回の授業プランはKJ法を採用し、授業を展開することとした。

3 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	○仙台市防災教育副読本「3・11 から未来へ」P50「地域の一員として」を読み、地域の防災組織について知るとともに、P51 から市内の中学校で地域と共同で	・同副読本 P. 14～15「私たちも立ち上がる」には震災当時の中学生が行った活動について紹介されているが、ここでは提示せず、展開の段階で、意見交換時に意見が出にくい場

行っている活動内容を知る。

合に活用することとする。

- 地域の年齢別人口構成をもとに、日中の20代から50代の大人の人口が職場の関係で少なくなっていることを知る。

避難所開設時、中学生の私たちにできることは何だろう

展開

- ・事前に模造紙、ふせん、マジックを班の数準備しておく。また、進行役には手順を事前に説明しておく。

- 5～6人の班で「避難所開設時、中学生の私たちにできること」について意見交換を行う。

- ・避難所開設の際、避難した人々の中で、特に支援が必要な人はどのような人で、どのような内容の支援を中学生がする必要があるのかを中心に意見交換を進めるよう助言する。

- ・高齢者 ・障害者 ・外国人
・小さい子がいる家族 等

- 避難所のイメージが浮かばず、意見が出にくい場合は、副読本P14～15「私たちが立ち上がる」を紹介し、震災当時に中学生が行った活動を紹介する。

- ・班の中で1名、あらかじめ進行役めておく。
- ・ふせんを全員に数枚ずつ配布し、「私たちができること」を記入する。
- ・記入後、台紙である模造紙に一言述べながら持ち札のすべてを貼付する。
- ・全員が貼り付け後、内容が近いカードを集めて意見交換を行いながらグループ化し、見出しを付ける。
- ・単独のカードはそのままにする。
- ・ふせんの内容から特に大切なことは何かを意見交換し、その内容をカードに記入する。

<評価> 避難所開設の際、自分たちができることについて積極的に考えることができたか。(発言、ワークシート)

- 避難所でできると思われることについて班内で意見交換した結果を学級の中で発表するとともに、記入したカードを黒板に貼る。発表後もカードは黒板に残しておく。

- ・授業終了後は模造紙を教室後方や廊下に掲示し、生徒への意識付けを行う。

- ・全班的発表終了後、しなければならぬことの内容として「自分の体調管理を忘れない」等、避難所での活動においても自助を忘れないことを助言する。

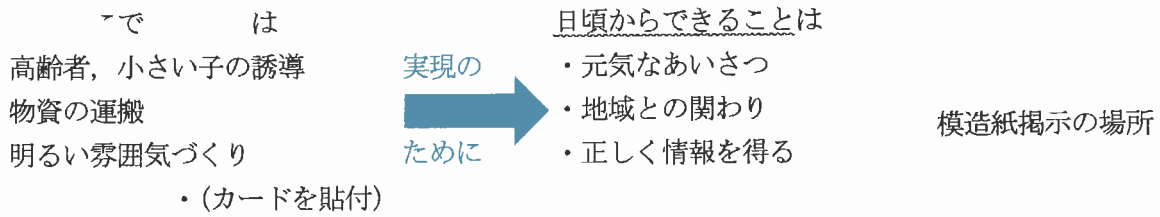
終末

- 意見交換で発表された内容を実現させるために、日頃から気を付けなければならないことは何かを考える。
 - ・あいさつや行事への参加を通して、地域とのかかわりを大切にする。
 - ・常に正しい情報を得ることができるよう心掛ける。 等

- 意見交換の内容をもとに、学校や地域、家庭での日常生活において平時に留意する事項を個々で文章として記入させる。

4 板書計画

避難所開設時，中学生の私たちにできることは何だろう



自分の体調管理をしっかりする ←自助の考えを忘れない

5 評価

避難所開設の際，地域社会の一員として，自分たちができることについて積極的に考えることができたか。

6 ワークシート

避難所開設時，中学生の私たちにできること

氏名 ()

- 避難所が開設されたとき，特に支援（手助け）が必要なのは，どのような人でしょうか。

- 班の中で意見交換した結果，中学生にできることで，特に大切なこととしてどのようなことが出されましたか。（班長はカードにも記入してください。発表の際，黒板に掲示します。）

- 各班から発表された内容を避難所開設時に実現させるために，日頃から気を付けることとしてどのようなことが挙げられますか。

年間指導計画に位置付ける事項

仙台市復興ソングの継承

授業実践例7 学級活動

中学校3学年 F(2)

「復興への歩み」を語り継ごう

1 授業について

(1) 教科等のねらい

(2) 適応と成長及び健康安全 カ ボランティア活動の意義の理解と参加

(2) 防災教育のねらい

震災やその後の復興過程の記憶や記録から、語り継ぐべき情報や思いを取り出し、自分たちの言葉で語り継いでいこうとする姿勢を育む。

2 授業プランの作成に当たって

(1) 生徒の実態

平成28年度中学校入学生は震災当時小学校1年生であった。平成29年度入学する小学校1年生に至っては震災当時まだ生まれていない。防災学習やテレビの映像などで震災当時の様子は知っており、自助や共助の行動についても各種訓練などを通して身に付いてきている。しかし、当時の避難所での仕事や復旧作業などを実際に体験したわけではなく、なぜ防災学習が必要なのかについて実感することが難しくなっている。さらに、当時の中学生の活躍や考えなどを知る機会も少なくなっている。防災や救助の手段を身に付けていく訓練も必要であるが、なぜ必要なのかを考えさせることや、先輩方が築いてきた足跡を学び、引き継いでいこうとする態度を育むことの必要性が高まってきている。

(2) 指導事項の概要

復興に向けた地域での先輩方の歩みを語り継ぎ、東日本大震災の教訓や記憶の風化を防止するとともに、防災学習に進んで取り組もうとする態度を養っていく。そのために仙台版防災教育副読本や「ともに、前へ」（仙台市中学校長会制作DVD）を用い、復興に向けた中学生の歩みについて知り、「中学生にできること」について考えさせるとともに、復興への歩みを語り継いでいこうとする意識を高める。

(3) 指導の方向

仙台版防災教育副読本を活用しながら学習を進める。授業の前半では「復興ソング」と「故郷復興プロジェクトの歩み」を読み、復興を支えようとした当時の中学生の思いを考えさせる。後半では、「ともに、前へ ②」（仙台市中学校長会制作DVD）を視聴し、当時の中学生が行ってきたことを知らせる。その上で「今の自分だったら何ができるか」という観点で考えさせていく。当時の中学生の思いや活動を追体験させることで、防災学習の意味や、必要性を実感させたい。（DVDが準備できない場合は、仙台版防災教育副読本「3.11から未来へ」の第2章「復興への歩み」から「絆を力に一歩ずつ」と「私たちも立ち上がる」を資料として用いる。）

3 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	○「仲間とともに」を聴く。 ○学習課題を知る。	・副読本 P8, 9 を見ながら聴かせる。 ・「なぜこの歌が作られたでしょう」と問い掛け, 関心を持たせてから学習課題を提示する。
		「復興への歩み」を語り継ごう
展開	「仲間とともに」にはどのような思いが込められているのだろうか。 ・何とかして復興を元気づけたい。 ・感謝の気持ちや前向きな気持ちを多くの人に聞いてもらうことで語り継いでいきたい。 ・団結することが大きな力を生み出すことを伝えたい。	・副読本 P16, 17「故郷復興プロジェクトの取組」を範読する。 ・ワークシートに書かせてから発表させる。 ・「語り継いでいきたい」「伝えたい」「感謝」「団結」「できること」などの言葉を取り上げ, 次の展開につなげる。
	DVD「ともに, 前へ ②」を視聴し, 印象に残ったことを挙げよう。	
	・混乱し, 信じられなくらいつらい状況の中でたくましく生きている。 ・困った人のために何かをしたり, 助け合ったりすることが自然にできている。 ・積極的にいろいろな活動をしていた。	・中学生の活躍した姿を中心に捉えさせる。 ・DVDが準備できない場合は, 防災教育副読本の第2章「復興への歩み」から「絆を力に一步ずつ」と「私たちも立ち上がる」を資料として用いる。
	「私には何ができるだろう」と歌詞にあるが, 自分たちにできることとはどのようなことだろうか。	
	・多くの犠牲者の命の重みや, 今生きていることの尊さを心に刻み生きていく。 ・多くの命が輝くために自分ができることに精一杯取り組んでいく。 ・復興の取り組みを語り継いでいく。	・ワークシートに記入させた後, ペア学習で意見を交流させる。 ・全体で数名に発表させる。 〈評価〉震災やその後の復興過程の記憶や記録から, 語り継ぐべき情報や思いを取り出し, 自分たちの言葉で語り継いでいこうとすることができたか。(発言, ワークシート)
終末	○次の世代へ語り継いでいきたいこととして考えたことを発表する。 ・先輩方を見習い, 復興の取り組みや, 社会に貢献する心を引き継いでいきたい。	・ワークシート参照 ・ワークシートに記入させ, 数名に発表させる。

4 板書計画

「復興への歩み」を語り継ごう

「仲間とともに」

- ・元気づけたい。
- ・感謝，前向きさ
→語り継いでいきたい。
- ・団結の大切さ伝えたい。

当時の中学生

- ・混乱の中
- ◀▶ たくましさ
- ・困っている人や地域
のために助け合う。
→自然にできている。

先輩方
思い・行動
↓
つないでいく

5 評価

震災やその後の復興過程の記憶や記録から，語り継ぐべき情報や思いを取り出し，自分たちの言葉で語り継いでいこうとすることができたか。

6 ワークシート

「復興への歩み」を語り継ごう

氏名 ()

- 1 「仲間とともに」に込められた思い
- 2 「ともに，前へ ②」を視聴し印象に残ったこと
- 3 私たちにできること
- 4 語り継いでいきたいこと

復興ソング

希望の道 (小学校)

作詞 越後 瑠璃 (当時 台原小学校6年)
作曲 かの 香織 遊佐 未森
編曲 佐藤 準

夜空 見上げて 思い出す あの日の星の かがやきを
日差しを浴びて 思い出す あの日の人の あたたかさ
だれもがみんな助け合い だれもがみんな支え合った
あの日のことを 心に刻み 前をしっかりと 見つめながら
歩いていこう 未来への道を

雪のまう日に 思い出す あの日の夜の 冷たさを
ラジオの語りに 思い出す あの日が教えてくれたこと
日本中が助け合い 世界中が支えてくれた
あの日のことを 心に刻み 前をしっかりと 見つめながら
歩いていこう 希望の道を

だれもがみんな助け合い だれもがみんな支え合った
あの日のことを 心に刻み 前をしっかりと 見つめながら
歩き続けよう 希望の道を 希望の道を

仲間とともに (中学校)

作詞 藪内 海美 (当時 南小泉中学校2年)
作曲 かの 香織 遊佐 未森
編曲 佐藤 準

私には何ができるだろう 感謝の気持ちを忘れないこと
復興を心から祈ること 優しさと笑顔をみんなに届けること
不安で前が見えなくなったあの日から

私たちは歩き始めた 未来という光を目指して
前へ前へ仲間とともに 一步一步力強く

私には何ができるだろう 思いやりの心を忘れないこと
街中の幸せを願うこと 残された命を精一杯生きること
大事なものを失くして泣いたあの日から

私たちは歩き始めた 大好きなこの街を抱きしめ
前へ前へ仲間とともに 一步一步力強く

私たちは歩き始めた 大好きなこの街を抱きしめ
前へ前へ仲間とともに 一步一步力強く

参考資料

1 仙台市立七郷小学校「防災安全科」

※文部科学省指定研究開発学校（平成 25～28 年度）

(1) 小学校学習指導要領「防災安全科」

(2) 授業実践例

2 平成 28 年度仙台版防災教育研究推進取組発表校 実践発表資料から

(1) 仙台市立高森東小学校

(2) 仙台市立上杉山中学校

3 単元配列表モデル

(1) 小学校【高学年】

(2) 中学校【1～3年】

4 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）別紙

(1) 健康・安全・食に関わる資質・能力

(2) 防災を含む安全に関する教育のイメージ

1 仙台市立七郷小学校「防災安全科」

※文部科学省指定研究開発学校（平成 25～28 年度）

小学校学習指導要領 防災安全科

●第 1 目標

日常生活の様々な場面で発生する災害等についての理解を図り，身の回りの危険を予測して，どのように行動すればよいかを判断し，自らの安全を確保しようとする能力の基礎を育てるとともに，他の人や地域の安全に役立つとする態度を養う。

●第 2 各学年の目標及び内容

〔第 1 学年及び第 2 学年〕

1 目標

- (1) 身近な災害等の危険や助けの求め方を理解できるようにする。
- (2) 災害等による身の回りの危険に気づき，どのように行動すればよいかを考えることができるようにする。
- (3) 感謝の気持ちを持って地域の人たちと関わろうとする態度を育てる。

2 内容

A 災害等の理解に関すること

- (1) 災害の種類や特徴等を理解する。
(地震，津波，噴火，台風，集中豪雨，強風，竜巻，雷，大雪等)
 - ア) 地震や津波について知る。
 - イ) 大雨や強風，雷などについて知る。
- (2) 災害の発生メカニズムや災害による被害等を理解する。
 - ア) 地震や津波による危険について知る。
 - イ) 大雨や強風，雷などによる危険について知る。
- (3) 地域で起きた過去の災害と伝承を理解する。
 - ア) 地域に起こった災害を知る。
- (4) 災害防止や復旧・復興に関する取組を理解する。
 - ア) 地域の人々が協力して防災に取り組んでいることを知る。
 - イ) 地域の災害復旧・復興に関する取組を知る。

B 危険から命を守る方法に関すること

- (1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。
 - ア) 危険から身を守る方法や避難の仕方を知る。
 - イ) 大人に助けを呼ぶ方法を知る。
- (2) 情報を生かす方法を理解する。
 - ア) 住所や電話番号など，自分の情報の伝え方を知る。
 - イ) 家族の連絡先を知る。

- (3) 応急手当の方法を理解する。
 - ア) 軽いけがの時は傷口を水洗いすることを知る。
- (4) 生き抜く知恵と技能について理解する。
 - ア) 水・電気・ガスの大切さを知る。
- C 日常の備えに関すること
 - (1) 家庭での備えを理解する。
 - ア) 家庭での設備に関する備えを知る。
 - イ) 家庭では物資や食料に関して、どのような備えがあるかを知る。
 - ウ) 災害時の家庭内での約束事や役割分担などを理解する。
 - (2) 学校や地域での備えを理解する。
 - ア) 学校で備蓄や備えがあることを知る。
 - イ) 地域の避難場所や「こども110番の家・店」などを知る。
 - ウ) 地域には防災に役立つ設備があることを知る。
 - エ) 避難訓練や防災訓練では、周りの人の指示をしっかりと聞き、落ち着いて行動する大切さを知る。
- D 危険予測・判断に関すること
 - (1) 危険を予測する。
 - ア) 通学路での災害等の危険を考える。
 - (2) 安全に行動するために適切に判断する。
 - ア) 災害等による危険を避けるためにどう行動するかを考える。
 - イ) 通学路での災害等の危険を避けるためにどう行動するかを考える。
- E 支援者の基盤に関すること。
 - (1) 強い心を持ち、冷静に行動しようとする。
 - ア) 大人の指示をよく聞いて行動しようとする。
 - イ) どんなときでも頑張る心を持って行動しようとする。
 - (2) 感謝や思いやりの心を持って行動しようとする。
 - ア) 地域の防災や安全のために見守ってくれる人たちに感謝の気持ちを持って行動しようとする。
 - イ) 友達や周りの人に親切にしようとする。
 - (3) 自然を愛護して生命を尊重しようとする。
 - ア) 動植物の世話を通し、自然を大切にしようとする。
 - イ) 自然の不思議や美しさを感じ取ろうとする。
 - ウ) 生き物に優しくしようとする。
 - (4) 他者と関わりを持とうとする。
 - ア) 防災や安全のために見守ってくれる人たちに自分から挨拶をしようとする。
 - イ) 友達や近所の人たちと関わろうとする。
 - ウ) 自分の思いを相手に伝えようとする。
- F 社会貢献に関すること
 - (1) 被災者を支援しようとする。
 - ア) 人の役に立ちたいという気持ちを持って行動しようとする。

- (2) 教訓を伝えようとする。
 - ア) 学校で学んだ防災のことを家族に伝えようとする。
- (3) 家庭や地域に役立とうとする。
 - ア) 身の回りの人のために役立とうとする。
- (4) 夢や希望を持とうとする。
 - ア) ルールや決まりを守り、安全に生活しようとする。

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A災害等の理解に関すること」の(1)及び(2)については、地震、津波、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪から、身近に起こり得る内容を選択して取り扱うものとする。
- (2) 内容の「F社会貢献に関すること」の(4)については、これから自分にはどんなことができるかを考えることができるようにする。
- (3) 内容の「B危険から命を守る方法に関すること」の(1)及び「C日常の備えに関すること」の(2)については、地域の「こども110番の家・店」の利用と関連付けて取り扱うものとする。
- (4) 内容の「D危険予測・判断に関すること」の(1)及び(2)については、学校や通学路を中心に扱うものとする。

〔第3学年及び第4学年〕

1 目標

- (1) 地域で起こりやすい災害や過去の災害等を知り、日常の備えについて理解できるようにする。
- (2) 災害等による地域の危険を予測し、どのように行動すればよいかを判断することができるようにする。
- (3) 感謝の気持ちを持って地域の人たちと関わり、家庭や学校の安全のために役立とうとする態度を育てる。

2 内容

A 災害等の理解に関すること

- (1) 災害の種類や特徴を理解する。
 - (地震、津波、噴火、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪等)
 - ア) 災害とは何かを理解する。
 - イ) 地震や津波の特徴を理解する。
 - ウ) 大雨や強風、雷などの特徴を理解する。
- (2) 災害の発生メカニズムや災害による被害等を理解する。
 - ア) 地震や津波による被害を理解する。
 - イ) 大雨や強風、雷などによる被害を理解する。
- (3) 地域で起きた過去の災害と伝承を理解する。
 - ア) 地域に伝わる災害の伝承を知る。

- イ) 地域で起きた災害の被害の様子を理解する。
- (4) 災害防止や復旧・復興に関する取組を理解する。
 - ア) 関係機関による防災の取組を理解する。
 - イ) 関係機関による災害復旧や復興の取組を理解する。
- B 危険から身を守る方法に関すること
 - (1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。
 - ア) 災害等に対応した身の守り方や避難の仕方を理解する。
 - イ) 119番通報の仕方を理解する。
 - (2) 情報を生かす方法を理解する。
 - ア) 家族と連絡を取り合う方法を理解する。
 - (3) 応急手当の方法を理解する。
 - ア) 軽いけがのときの止血方法を知る。
 - イ) AEDの設置場所を知る。
 - (4) 生き抜く知恵と技能について理解する。
 - ア) ライフラインと自分たちの生活とのつながりを理解する。
- C 日常の備えに関すること
 - (1) 家庭での備蓄について理解する。
 - ア) 家庭での設備に関する備えを調べ、大切さを理解する。
 - イ) 家庭での物資や食料に関する備えを調べ、大切さを理解する。
 - ウ) 災害時の家庭内での約束事や役割分担などを理解する。
 - (2) 地域での備えについて理解する。
 - ア) 学校の備蓄について調べ、災害時への備えを理解する。
 - イ) 地域の避難場所や「こども110番の家・店」などの役割を理解する。
 - ウ) 地域にある防災に役立つ設備について知り、地域の防災を理解する。
 - エ) 避難訓練や防災訓練では、話をよく聞いて、指示に従ったり安全に行動したりする大切さを知る。
- D 危険予測・判断に関すること
 - (1) 危険を予測する。
 - ア) 学校や家庭、地域での災害等の危険を考える。
 - (2) 安全に行動するために適切に判断する。
 - ア) 災害等による危険を避けるためにどう行動するかを自分で考える。
 - イ) 学校や家庭、地域での災害等の危険を避けるためにどう行動するかを自分で考える。
- E 支援者の基盤に関すること
 - (1) 強い心を持ち、冷静に行動しようとする。
 - ア) 周りの様子や指示に応じて行動しようとする。
 - イ) 困ったときにも投げ出さない心を持って行動しようとする。
 - (2) 感謝や思いやりの心を持って行動しようとする。
 - ア) お世話になっている地域の方に感謝の気持ちを持って行動しようとする。
 - イ) 友達や下級生に対して思いやりの気持ちを持ち、親切にしようとする。

- (3) 自然を愛護して生命を尊重しようとする。
 - ア) 生命のつながりを感じて、自然や動植物を大切にしようとする。
 - イ) 自然の美しさやすばらしさを感じ取ろうとする。
 - ウ) 命あるものを大切にしようとする。
- (4) 他者と関わりを持とうとする。
 - ア) お世話になっている地域の方に自分から挨拶をしようとする。
 - イ) 地域の行事などに参加し、身の回りの人とつながろうとする。
 - ウ) 相手と互いに思いを伝え合おうとする。

F 社会貢献に関すること

- (1) 被災者を支援しようとする。
 - ア) ボランティア活動について知り、自分たちにできることを考えようとする。
- (2) 教訓を伝えようとする。
 - ア) 学校で学んだ防災のことを家族や地域に伝えようとする。
- (3) 家庭や地域に役立とうとする。
 - ア) 家族や地域のために役立とうとする。
- (4) 夢や希望を持とうとする。
 - ア) 防災の意識を持って安全・安心な生活をしようとする。

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A 災害の理解に関すること」の(1)及び(2)については、地震、津波、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪から、その地域に起こり得る内容を選択して取り扱うものとする。
- (2) 内容の「B 危険から命を守る方法に関すること」の(1)のイの119番通報については、社会科と関連付けて4学年で取り扱うものとする。
- (3) 内容の「F 社会貢献に関すること」の(3)のアについては、支援と関連付けて、復旧・復興を目指して地域で活動しているボランティアの団体を取り扱うものとする。
- (4) 内容の「F 社会貢献に関すること」の(1)のアについては、道徳の内容とより深く関連付けて取り扱うものとする。

〔第5学年及び第6学年〕

1 目標

- (1) 災害等の原因や仕組み、情報の特性、被害を軽減し、災害後に役立つもの等について理解できるようにする。
- (2) 災害等に関する知識や情報、状況等を基に危険を予測し、どのように行動すればよいかを判断することができるようにする。
- (3) 下級生の安全に気配りし、地域の安全のために役立とうとするとともに、将来に夢や希望を持とうとする態度を育てる。

2 内容

A 災害等の理解に関すること

- (1) 災害の種類や特徴等を理解する。
(地震, 津波, 噴火, 台風, 集中豪雨, 強風, 竜巻, 雷, 大雪等)
 - ア) 災害の種類や特性を理解する。
 - イ) 災害の原因(自然と社会)を理解する。
- (2) 災害の発生メカニズムや災害による被害等を理解する。
 - ア) 災害の特性と発生メカニズムを理解する。
(5年で気象, 6年で地震と津波)
 - イ) 災害による被害を理解する
- (3) 地域で起きた過去の災害と伝承を理解する。
 - ア) 東日本大震災や過去の災害の伝承を理解する。
 - イ) 東日本大震災や過去の災害の被害の様子を理解する。
- (4) 災害防止や復旧・復興に関する取組を理解する。
 - ア) 国や自治体による防災に関する取組を理解する。
 - イ) 国や自治体による災害復旧や復興の取組を理解する。

B 危険から命を守る方法に関すること

- (1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。
 - ア) 災害等やその場の状況に応じた身の守り方や避難の仕方を理解する。
- (2) 情報を生かす方法を理解する。
 - ア) 災害時の心の変化と行動を理解する。
 - イ) 災害時に必要な情報と入手の仕方を理解する。
- (3) 応急手当の方法を理解する。
 - ア) 出血や打撲をしたときの簡単な手当の仕方を理解する。
 - イ) AEDの機能を理解する。
- (4) 生き抜く知恵と技能について理解する。
 - ア) ライフラインが止まったときの対処法を理解する。

C 日常の備えに関すること

- (1) 家庭での備えを理解する。
 - ア) 家庭での設備に関する備えを調べ, 工夫や必要性を理解する。
 - イ) 家庭での物資や食料に関する備えを調べ, 工夫や必要性を理解する。
 - ウ) 災害時の家庭内での約束事や役割分担などを理解する。
- (2) 学校や地域での備えを理解する。
 - ア) 学校の備蓄を調べ, 工夫や災害時への備えを理解する。
 - イ) 地域の防災に関する取組を理解する。
 - ウ) 地域にある防災に役立つ設備について調べ, 地域の防災を理解する。
 - エ) 避難訓練や防災訓練では, 危険を予測し, 安全を確保するために行動する大切さを理解する。

D 危険予測・判断に関すること

(1) 危険を予測する。

ア) 災害の種類による危険を考える。

イ) 場所や時刻など、様々な状況を想定して危険を予測する。

(2) 安全に行動するために適切に判断する。

ア) 災害等による危険を避けるためにどう行動するかを自分で判断する。

イ) 場所や時刻など、様々な状況による危険を避けるためにどう行動するかを自分で判断する。

E 支援者の基盤に関すること

(1) 強い心を持ち、冷静に行動しようとする。

ア) 状況に応じて落ち着いて行動しようとする。

イ) 困難に直面しても負けない強い心を持って行動しようとする。

(2) 感謝や思いやりの心を持って行動しようとする。

ア) お世話になっている方々に感謝の気持ちを持って行動しようとする。

イ) 困っている人に対して思いやりの気持ちを持ち、親切にしようとする。

(3) 自然を愛護して生命を尊重しようとする。

ア) 自然の美しさや偉大さを感じ、自然を守っていこうとする。

イ) 畏敬の念を持って自然の力を感じようとする。

ウ) 命を見つめ、自他の生命を尊重しようとする。

(4) 他者と関わりを持とうとする。

ア) お世話になっている方々に進んで挨拶をしようとする。

イ) 地域の行事などに参加し、地域とつながりを持とうとする。

ウ) 思いを伝え合い、互いの良さを認めながらコミュニケーションを取ろうとする。

F 社会貢献に関すること

(1) 被災者を支援しようとする。

ア) 他地域で災害が起きたとき、被災した人たちのために自分たちにできることを考えて、支援しようとする。

(2) 教訓を伝えようとする。

ア) 学校で学んだ防災のことを教訓として伝えようとする。

(3) 家庭や地域に役立とうとする。

ア) 地域のために役立とうとする。

(4) 夢や希望を持とうとする。

ア) 防災を通して自分の生き方やこれからの社会に夢や希望を持って生きようとする。

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A 災害の理解に関すること」の(1)及び(2)については、地震、津波、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪から、日本で起こり得る内容を選択して取り扱うものとする。

- (2) 内容の「B危険から命を守る方法に関すること」の(2)のイについては、社会科の情報手段の特徴と関連付けて取り扱うものとする。
- (3) 内容の「B危険から命を守る方法に関すること」の(3)のアについては、児童の実態に応じて骨折ややけどなどのけがも関連付けて取り扱うものとする。
- (4) 内容の「C日常の備えに関すること」の(1)のアについては、救急箱についても関連付けて取り扱うものとする。
- (5) 内容の「F社会貢献に関すること」の(4)のアについては、被災体験やそれらから学んだ教訓について、次世代にどう伝え、未来にどう生かしていくかを関連付けて取り扱うものとする。

〔特別支援〕

1 目標

- (1) 地震や大雨，強風，雷など，生活の中には危険が潜んでいることを理解できるようにする。
- (2) 災害等による身の回りの危険に気付き，身を守ろうとする。
- (3) 感謝の気持ちを持って身近な人たちと関わり，自分にできることをしようとする態度を育てる。

2 内容

A 災害等の理解に関すること

- (1) 災害について知る。
 - ア) 地震や津波について知る。
 - イ) 大雨や強風，雷などについて知る。
- (2) 災害による危険について知る。
 - ア) 地震や津波による危険について知る。
 - イ) 大雨や強風，雷などによる危険について知る。

B 危険から身を守る方法に関すること

- (1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。
 - ア) 地震や雷などから身を守る方法や避難の仕方を知る。
 - イ) 大人に助けを呼ぶ方法を知る。
 - ウ) 防災ノート（自分の住所，電話番号，家族の連絡先，集合場所）を家族とともに作り，使えるようになる。
- (4) 生き抜く知恵と技能について理解する。
 - ア) 水・電気・ガスの大切さを知る。

C 日常の備えに関すること

- (1) 家庭での備えを理解する。
 - ア) 家庭での備えがあることを知る。
- (2) 学校や地域での備えを理解する。
 - ア) 地域の避難場所や「こども110番の家・店」などを知る。

D 危険予測・判断に関すること

(1) 危険を予測する。

ア) 学校や家の周りにおける災害等の危険を知る。

(2) 安全に行動するために適切に判断する。

ア) 災害等による危険を避けるためにどう行動するかを判断する。

イ) 通学路での災害等の危険を避けるためにどう行動するかを判断する。

E 支援者の基盤に関すること

(1) 強い心を持ち、冷静に行動しようとする。

ア) 大人の指示をよく聞いて行動しようとする。

(2) 感謝や思いやりの心を持って行動しようとする。

ア) 防災や安全のために見守ってくれる人たちに感謝の気持ちを持って行動しようとする。

(3) 自然を愛護して生命を尊重しようとする。

ア) 自然や命のすばらしさを感じながら飼育・栽培活動に取り組もうとする。

(4) 他者と関わりを持とうとする。

ア) 防災や安全のために見守ってくれる人たちに自分から挨拶をしようとする。

F 社会貢献に関すること

(1) 被災者を支援しようとする。

ア) 学校で学んだ防災のことを、家族や友達に伝えようとする。

(4) 夢や希望を持とうとする。

ア) 安心して、希望を持って生活しようとする。

3 内容の取扱い

(1) 内容の「B危険から命を守る方法に関すること」の(1)及び(2)については、防災ノートを取り扱うものとする。

(2) 内容の「D危険予測・判断に関すること」の(1)及び(2)については、学校や通学路を中心に扱うものとする。

●第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 防災安全科と各教科、領域の関連を考慮して適切に指導し、学習したことが相互に密接に結びつくようにすること。また、関連がある内容については防災安全科と各教科、領域でも指導を行うことで、より指導の効果を高めるように工夫すること。

(2) 防災や復旧・復興のために活動しているボランティア団体や地域の方々などと連携、協力を図りながら、それらを積極的に活用するよう配慮すること。

(3) 第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、防災安全科の特質に応じて適切な指導をすること。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 心のケアの観点から取り扱う内容については被災者の心情に配慮しながら、児童にとって心理的な負担の少ないものを取り上げるなど、十分に留意すること。
- (2) 内容の「A災害の理解に関すること」の(1)及び(2)については災害の種類や特徴と発生メカニズムを関連付けて取り扱うこと。
- (3) 各学年の内容については、地域や児童の実態に応じて、繰り返し指導したり、防災安全科としては取り上げず、関連の深い他教科、領域を通して指導したりするなど、弾力的に取り扱うこと。

《A 災害等の理解に関する取扱い》

取り扱う災害は、第1, 2学年では身近な災害, 第3, 4学年では地域で起こり得る災害, 第5, 6学年では日本の災害とする。

A(1)は、全学年ともに扱う。

A(2), A(3), A(4)は、第4, 5, 6学年でそれぞれ1, 2項目を選択して扱う。

《B 命を守る方法に関する取扱い》

Bは、全学年ともに、B(1), B(2), B(3), B(4)からそれぞれ1項目を選択して扱う。

《C 備えに関する取扱い》

C(1)またはC(2)は、全学年ともに、それぞれ1項目を選択して扱う。

《D 予測・判断に関する取扱い》

D(1)とD(2)は、全学年ともに扱う。他の項目と関連して扱う。

《E 支援者基盤に関する取扱い》

Eは、主に第1, 2, 3学年で扱う。

E(1)とE(3)は、教科・領域で扱い、関連を図る。

《F 社会貢献に関する取扱い》

Fは、主に第4, 5, 6学年で扱う。

F(1), F(2), F(3), F(4)から1, 2項目を選択して扱う。

「あんしん あんぜん がっこうせいかつ」

1 目標

校内で大きな地震が起きたとき、身を守るためにはどのように行動したらよいか考えることができるようにする。

2 単元計画（5時間扱い）

時	主な学習活動	資料	評価計画
1	<p>○東日本大震災について知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で起きた大きな自然災害について知る。 ・当時の体験談を聞くことで、被害の大きさや生活の様子を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度の6年生が作文を読んでいるビデオ ・仙台版防災教育副読本 P.4～7 	<p>東日本大震災の当時の様子について知ることができたか。</p> <p>【知識・理解】</p>
2	<p>○地震の揺れを体験しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起震車「ぐらら」に乗車し、大きな地震の揺れを体験する。 ・体験したことを基に、感じたことを発表し、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・起震車「ぐらら」 	<p>起震車で大きな地震の揺れを体験し、身を守る必要性を理解することができたか。</p> <p>【知識・理解】</p>
3	<p>○教室にいるとき、地震が起こったら。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に地震が起きたとき、どんな危険があるか考える。 ・地震が起きたとき、 <p>①「落ちてくるかも、倒れてくるかも、移動してくるかも」しれない場所を見付ける。</p> <p>②「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際にどのように行動したらよいか考え、行動してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・起震車「ぐらら」を体験している様子を撮影したビデオ 	<p>教室で地震に遭った際、危険を避けるためにどのように行動したらよいか考えることができたか。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
4	<p>○体育館にいるとき、地震が起こったら。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館で地震が起きたとき、どんな危険があるか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・身を守るものが近くにない場合、頭を守る姿勢をとることが大切であることを知る。 ・実際にどのように行動したらよいか考え、行動してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館の中の写真 ・「だんごむしポーズ」の絵 	<p>体育館で地震に遭った際、危険を避けるためにどのように行動したらよいか考えることができたか。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>

- 図書室にいるとき、地震が起こったら。
- 5 (本時) ・休み時間、図書室にいたときに、地震が起きたらどんな危険があるか話し合う。
・地震の後、避難するときに友達が動けなくなっていたらどのように行動するか考える。
- ・図書室の中の写真
- 大きな地震が起きて避難するときに、周りの人のことを考えようとしていたか。
- 【態度】

3 本時の授業について

(1) 防災教育のねらい

大きな地震が起きて避難するときに、周りの人のことを考えることができるようにする。(指導事項：友達や周りの人に親切にしようとする)

(2) 防災教育の視点

自分の身の安全を確保する自助に加えて、友達を助けたいと思って自分にできることを考えようとする共助の素地を養う。

4 授業プランの作成に当たって

(1) 児童の実態

小学校低学年の児童においても、周りの友達がけがをしたときに「大丈夫？」と声を掛けたり教師を呼びに行ったりするなど、友達のことを思いやる気持ちと行動が見られる。しかし、避難訓練などの際に、周りの人のことを考える行動までは見られない。

(2) 指導事項の概要

本単元では、E(1)「強い心と冷静な行動」、(2)「感謝や思いやりの心」を取り扱う。災害時、まずは自分の身の安全を確保することが何よりも大切である。しかし、それは我先に逃げるとか友達を見捨てるとかではない。低学年の児童においても、地震発生時の状況を把握し、自分の身を第一に考えつつ、周りの人のことも考えることができるようにする。

(3) 指導の方向

地震が起きたときの身の守り方を学習した後に行う。休み時間に大きな地震が発生して避難する際、友達が動けなくなっている場面を想定する。「自分だったらどうするか」を考えさせ、様々な意見を共有することで「周りの人も大切にしたい」という気持ちに気付かせていく。さらに、自分の身も守らなければならない状況の中で、周りの人のために自分にできる行動とはどのようなものなのか考えを深めさせ、共助の素地を育てていきたい。

5 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	1 休み時間、図書室で地震が起きたときの危険と身の守り方を考える。 ・本が落ちたり本棚が倒れてきたりするかもしれないから、本棚から離れる。 ・頭に物がぶつからないように、机の下に隠れる。	・仙台版防災教育副読本 P.7 (震災時の図書室の写真), P.31 (第4章1「身のまもり方を考えよう」) ・図書室で起こり得る危険に気付かせ、回避する行動を

2 学習課題を捉える。

校庭に避難することになったが、友達が動けなくなっていた。自分ならどうするか考えよう。

- ・怖くて動けなくなってしまったのかな。
- ・地震のときにけがをしてしまったのかも。
- ・倒れてきた本棚に挟まったのかも。

3 自分ならどうするか考える。

- ・一緒に避難したい。
- ・声を掛けてあげれば、怖くなくなるかもしれない。
- ・自分も怖いし、避難しなければならない。どうしよう。

4 考えを発表して共有する。

- ・「一緒に行こう。」と言って手をつないで避難したい。
- ・余震が来るかもしれないし、怖くて何もできないかもしれない。
- ・自分では助けられないかもしれないから、先生を呼んで来て助けてもらう。
- ・「大丈夫だよ。」と声を掛けたら安心するかもしれない。

5 学習を振り返る。

- ・自分のことも友達のこと大切になりたい。
- ・周りの人も助けられるようにもっと勉強したい。

考えられるようにする。

- ・自分は危険を回避することができたが、「友達がけがをして動けなくなっている」という新たな条件を提示して、学習課題につなげていく。また、「先生が近くにいないこと」や「すぐに避難するよう放送で指示があったこと」などの状況もつかませる。

- ・「どうしてそうなの」と問い、友達を思っている行動であることに気付かせる。
- ・「助けたいけど自分の身も守らない」という発言を取り上げ、状況によっては自分ではどうすることもできないことに気付かせる。

〈評価〉大きな地震が起きて避難するときに、周りの人のことを考えようとしていたか。

(発表, ワークシート)

- ・人の命も大切にできるかもしれないという思いを持たせたい。

6 板書計画

こうていに ひなんすることになったが、
ともだちが うごけなくなっていた。
じぶんならどうするか かんがえよう。

あんしんするように、こえをかけてあげる。

てをつないで いっしょににげる。

こわい！
どうしよう

動けなく
なっている
児童の
挿絵

動ける児
童の挿絵

せんせいを よびにいってくる。

じぶんもきけんだし、どうしよう

7 評価

大きな地震が起きて避難するときに、周りの人のことを考えようとしている。

「学ぼう！わたしたちの生活と大雨」

1 目標

大雨被害について理解し、身の安全を確保する方法について考え、自分の家庭でも生かすことができるようにする。

2 単元計画（4時間扱い）

時	主な学習活動	資料	評価計画
1	<p>○起こり得る気象災害を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな気象災害があるかを挙げ、気象によって引き起こされる災害を確認する。 ・映像を視聴して、大雨や雷、竜巻の恐ろしさを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みやぎ水害記録(昭和61年8月洪水) ・映像資料「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！・被害編」 	<p>気象災害の恐ろしさを知ることができたか。</p> <p>【知識・理解】</p>
2	<p>○大雨に関する気象用語を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨の強さを表す用語 (例) 30～50mm/h (激しい雨) →バケツをひっくり返したように降る ・気象情報：注意報，警報，特別警報，土砂災害警戒情報 ・災害情報：避難準備情報，避難勧告，避難指示 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事（平成28年8月30日の大雨被害） ・「雨と風」（気象庁リーフレット） 	<p>大雨に関する気象用語を理解できたか。</p> <p>【知識・理解】</p>
3 (本時)	<p>○大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大雨が降ってくるという状況を想定し、災害に遭わないためにどのタイミングでどのように行動するかを理由も一緒に考える。 ・自分の考えを気象予報士に確認してもらい、講評を受ける。 ・大雨時の行動にどのような危険があるのか、またどのような心構えを持つ必要があるのかを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨ワークショップ用パワーポイント ・大雨ワークショップ用ハザードマップ ・ゲストティーチャー：気象予報士 	<p>大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えていたか。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
4	<p>○大雨被害から身の安全を確保するための行動を家族と話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大雨被害から身を守るためには、日頃からの心構えや適切な行動の選択が必要であることを振り返る。 ・七郷学区で大雨が発生したとき取るべき行動を家族と話し合う計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市内水ハザードマップ（若林区版） ・七郷小学校学区地図 	<p>大雨被害から自分や家族の身の安全を確保するために行動しようという思いを持ったか。</p> <p>【態度】</p>

3 本時の授業について

(1) 防災教育のねらい

大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えることができるようにする。(指導事項：様々な状況による危険を避けるためにどのように行動するかを自分で判断する。)

(2) 防災教育の視点

気象災害から身の安全を確保する方法を考えることが自助，家族構成による避難の仕方を考えることが共助につながる。

4 授業プランの作成に当たって

(1) 児童の実態

気象そのものへの関心はあるものの，大雨を地震や津波のように大きな災害をもたらすものとして意識していない。気象情報の正確な理解はなされておらず，避難の仕方といった大雨被害から身の安全を確保するための行動を考える機会も少ない。

(2) 指導事項の概要

本単元では，指導事項A(1)「災害の種類や特徴」の中の気象災害を取り上げ，B(1)「身の守り方や避難の仕方」，D(1)「危険の予測」，(2)「安全のための判断」を取り扱う。毎年，台風や集中豪雨などによる気象災害が日本各地で起きている。大雨被害の特徴や恐ろしさをつかませ，それが自分たちの生活する地域でも起こり得るものだという認識を高めるとともに，身の安全を確保するための行動を考えられるようにする。

(3) 指導の方向

台風や集中豪雨など，大雨被害の特徴や恐ろしさを過去の資料等から理解できるようにしていく。ここでは，気象情報や災害情報などを理科・社会の学習内容と関連を図りながら取り扱う。さらに，架空の町に台風が接近しているという設定で，避難情報やハザードマップなどを参考にしながら，身の安全を確保するための行動を考えさせたい。(参考：気象庁主催の「大雨ワークショップ」)

5 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導 入	1 理科や社会の既習内容を確認する。 ・気象情報：注意報，警報，特別警報，土砂災害警戒情報	・気象情報や災害情報で使われている用語は，災害発生 のリスクを段階的に伝えて いることを確認する。 ・大雨被害から命を守るため には，適切な判断と避難が 必要であることを気付かせ， 学習課題につなげる。
	2 学習課題をつかむ。 大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えよう。	

〈設定と条件〉

日時：10月5日13時～6日13時

場所：地点B（斜面の近く）

住居：木造3階アパートの1階に在住

家族：父，母，私，祖父（歩行困難），車有り

3 どのように行動するか考える。

○どのタイミングで，どんな行動をするか。なぜか。

・ハザードマップで浸水しそうな所からなるべく離れた道を通るようにする。

・18時30分の土砂災害警戒情報を待っていたら道が混むかもしれない。もっと早く家を出る。

・持ち物のことも考えて，準備した方がよいのではないかな。

展 開 3階建ての家だから上の階に避難できるかもしれない。

4 考えた行動を発表し，共有する。

・少し遠回りにはなるけど，浸水しそうな場所から離れた道路を通って避難場所に向かう。

・遠回りするなら，18時30分の出発だと渋滞に巻き込まれるかもしれない。だから大雨警報の段階で出発したほうが良い。

・足の悪い祖父だけでも先に車に乗せて，避難所に向かったら安心ではないかな。

・足の悪い祖父もいるので，垂直避難をしたら良いと思う。

・土砂災害が起きそうな場所で木造の家だし，上の階に避難するのはむしろ危険なのではないか。

5 学習を振り返る。

・「命を守る四つのポイント」を確認する。

終 末 ①早めの避難を心掛ける

②高齢者や小さい子供，けが人への配慮をする。

③住んでいる場所によって注意することが変わる。

④避難しないという選択もある。

・ワークシート（ハザードマップ）を配付し，自分ならどのように行動するのかを記入させていく。自分の考えを書かせる際には，なぜその行動が身の安全を確保することにつながると思ったのか，根拠を明確にするように声掛けしていく。

・根拠を合わせて発表させていく。一つの考えに対して，似たような考えを持った児童にも問い掛けながら，全体で考えを深めさせていく。

・上の階に避難する（垂直避難）考えが出た際は，今回の状況では必ずしも安全とは言いきれないことを考えさせるようにする。

・友達の考えを聞いて「なるほど」と思ったことや考えが変わったことなどを発表させる。

〈評価〉大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えていたか。

（発表，ワークシー）

・気象予報士が考える「命を守る四つのポイント」を示し，本時で自分たちが考えた行動と照らし合わせてみる。

6 板書計画

〈学習課題〉

大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えよう。

みんなが
考えた行動

命を守る
四つのポイント

ハザード
マップ

〈設定と条件〉

日時
場所
住居
家族

- ・警報で避難
- ・祖父は先に避難
- ・浸水に注意
- ・上の階へ避難

- ①早めの避難
- ②人への配慮
- ③住む場所への配慮
- ④避難をしない選択

7 評価

大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えている。

8 ワークシート

〈学習課題〉

大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えよう。

〈ハザードマップ〉

※気象庁HP「大雨ワークショップ」よりダウンロード

〈設定と条件〉

日時：10月5日13:00～6日13:00

場所：地点B（斜面の近く）

住居：木造3階アパートの1階に在住

家族：父，母，私，祖父（歩行困難） 車有り

〈自分が考えた行動〉

いつ・どんな行動を？

なぜ？

〈「なるほど」と思ったことや考えが変わったこと〉

2-(1) 教科等横断的視点で実践する防災教育

仙台市立高森東小学校 第6学年

1 学校・地域の実態について

震災の被害がほとんどなく、水道や電気の面でも苦勞が少なかった地域である。地域では、避難所開設訓練を毎年行い、年々改善を加えている。その防災訓練において、小中学生の希望者が“すこボラ隊”として活躍している。

2 平成28年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

【自助】災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児

【共助】非常時に進んで他の人や地域の力となれる児童

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

【当たり前の指導を、年間通して、どのクラスでも、確実に、行う】

- ① 横断的、全教育活動で行う防災教育
- ② 協働型学校評価目標と関連付けた防災教育

4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

【自助】集団下校や避難訓練時の様子から、冷静に判断し、行動できる児童が多くなっていることがうかがえる。(緊急放送に対する適切な反応。休み時間に児童だけでも正しい行動。)

【共助】高森地域全体が、上学年は下学年の面倒を見ることが当たり前の雰囲気になりつつある。

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

1 普段の授業を防災の観点でつなぐ

本校では、学校行事などで取り組む避難訓練が年3回、集団下校訓練が2回、引渡訓練が1回実施されている(以後、学行等)。学行等の際に重視しているのが、事前と事後の指導である。例えば、6月の“地震に対する避難訓練”を核として、6年生は、道徳の時間において自他のいのちの重さについて考え、訓練直前には学活「避難訓練のめあてを立てよう」で具体を確認する。訓練後には、朝の活動「たてわりショート」において、低学年と遊び、その後、「もしこのとき地震があったらどうする。」と担任が投げかけ、実際の生活と結び付ける。

2 朝のショートタイム“防災学習”で確実に指導

学行等の事前、事後指導に欠かせないのが朝のショートタイム“防災学習”である。学行等の前・後の木曜日(学行等がないときは3週に一度程度)に位置付けられており、全校で・確実に・繰り返し防災について学習する。防災学習では、防災教育副読本も使用し、必要な知識や技能、心構え等を確認している。6年生になると副読本の同じ所を見ることもあるが、いのちに関する大切なことととらえ、繰り返し学習している。

3 共助は活動と生活の中で育む

本校の子供たちを見ていると感心することがある。それは、6年生が何気ない優しい言動を日頃から見せていることである。

たてわり活動では、低学年の手を取り、一緒に遊んだり、鶴を折ったりする姿があちらこちらで見ることができた。高森東地区防災訓練では、「自分たちでできるのは低学年のお世話」と、進んで幼稚園～低学年に本を読んであげたり、遊びの相手をしたりする“すこボラ隊”の姿があった。そこに、いざという時にしっかり低学年の面倒を見て、地域の一員として働く姿が見て取れる。

特別のことではなく、当たり前のことを、全員で、確実に指導する。それが本校の防災教育である。

高森東小学校

第6学年

防災教育年間指導計画

	教科	生活・総合	技能	特別活動	態度	道徳	行事等
4月				・たてわり活動 動ロング			
5月	(体) 病気の予防	◆(学) 大きな災害と人間の心の動き(3章⑤)		・たてわり活動 動ショート			
6月	(国) 新聞の投書を読んで意見を書こう (理) 生き物のくらしと環境	◆家族防災会議を開こう(4章④) ・修学旅行・自主研修	・たてわり活動 動ショート	・避難訓練事前指導			
7月		◆チャレンジ!子ども防災モニター(4章⑤)	・たてわり活動 動ショート	・夏休みの生活 ・災害時の家族の約束			・復興サミット ・高東オリンピック
9月	(理) 大地のつくり (理) 変わり続ける大地 ◆(理) 地震のメカニズムを知ろう(3章①) (国) 町の未来をえがこう	◆地震を乗り越えようとした先人の知恵(4章⑨)	(体) 着衣水泳 ・たてわり活動 動ショート	・絆プロジェクト ・絆プロジェクト	・節度ある生活態度		・高森東地区防災訓練 ・集団下校訓練
10月							
11月			・たてわり活動 動ショート	・避難訓練事前指導	・生命の尊重		・避難訓練(火災)
12月	◆(社) 人々をつなげる活動(5章②) (社) 震災復興の願いを実現する政治 (冢) わたしたちの生活と地域		・たてわり活動 動ショート	◆未来へつなぐ(2章③) ・冬休みの生活			
1月			・たてわり活動 動ショート	・絆プロジェクト			
2月	◆(社) つながる～世界の国々と～(5章①) (社) 世界の中の日本		・たてわり活動 動ショート				
3月		◆(学) 防災知識をチェックしよう(6章①) ◆(学) 仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	・たてわり活動 動ロング	・故郷復興プロジェクト	・生命の尊重		・エクト

2-(2) 生徒会活動等を核にして実践する防災教育

仙台市立上杉山中学校 第1学年

1 学校・地域の実態について

仙台市中心部に位置し、高層マンションが建ち並び、通勤族の家庭も多い。古くから居住している方々を中心に活発な町内会活動が行われている。仙台市の地域防災計画に基づき協議を重ね「上杉地区 避難所開設マニュアル」が完成した。今後、地域と連携した防災活動を推進していく計画である。

2 平成28年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる生徒の育成。
- ボランティア活動を通して災害時に進んで他の人や地域の力となれる生徒の育成。

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント（キーワードで）

- 生徒の地区別グループを組織化し、自主的に安全確保のできる生徒を育てる。
- JRC活動をはじめとしたボランティア活動の充実により、共助の精神を育てる。

4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

自然災害の予兆に敏感に意識を働かせ、このような場合はどうしたらよいかを口にする生徒が増えた。地域の一員としての自覚を持ち、環境美化への意識を強く持ったり、地域行事などへ進んで参加したりする生徒が増えた。

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

1 「急な大雨や雷から身を守ろう」(学級活動)の授業実践

本校は学校のすぐ側に梅田川、学区内及び近郊に地下鉄駅が3駅あるなど、積乱雲の急激な発達によるゲリラ豪雨時に被害が警戒される地域にある。また、本校北側には仙台市の土砂災害危険箇所指定される斜面があり、本校が指定避難所となっている。積乱雲がもたらす大雨や落雷などの自然災害は、本校生徒が直面する可能性が極めて高いものであると考えられる。これらの自然災害によって生徒が被害を受けることを防ぐためには、天候急変の兆しにいち早く気付き、安全を確保するための適切な対処法について学ぶことが重要であると考え、気象庁編「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」DVD利用を活用した授業実践を1学年にて行った。授業の概要は以下のとおりである。

- (1)DVD視聴後、登場人物の判断や行動についてどこが間違っていたのかを考え、ワークシートに記入する。
- (2)生活班でグループを組み、意見を発表し合う。班の代表者が出された意見をまとめ、学級全体に発表する。
- (3)解決編を視聴し、積乱雲に伴う自然災害から身を守る方法をまとめ、発表する。
- (4)防災教育副読本P48を読み、災害心理についての理解を深める。

2 避難訓練時における集団下校訓練の実施

3 生徒会、JRC委員会を主体とした、地域清掃の定期的実施

【目標】 災害についての基礎的な知識を知り，学区内の危険箇所を把握し適切に避難できる技能を身に付ける。

防災対応力の構成要素		知	技	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容
教科・領域		教科	総合	特活
日	関連行事等	教科	総合	特活
5	校外学習 JRC地域清掃		絆を力に一歩ずつ (2章①)	急な大雨や雷から身を守ろう
6	■避難訓練 ■集団下校訓練 JRC地域清掃			自分を守る(4章②) 地区避難グループを知る
7	JRC地域清掃			
9	大樹祭 JRC地域清掃	理科 3.11の地震を科学の目でとらえよう (3章②)		
10	職場訪問 JRC地域清掃		校外活動中の避難行動について	
11	★故郷復興プロジェクト① ◆避難訓練(火事) JRC地域清掃			地域の一員として (5章②)
12	JRC地域清掃	保体 心の健康を守るために (4章⑦)		
2	予餞式 JRC地域清掃			
3	卒業式 ★故郷復興プロジェクト②			防災知識をチェックしよう (6章①) 仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)

3-1(1) 単元配列表モデル 小学校【高学年】

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			小学校		デル					☆仙台版防災教育副読本	
国語			・書き手の意図を考えながら新聞を読もうF(2)								
社会							・情報化した社会とわたしたちの生活B(2)	・わたしたちの願いを実現する清治A(4)C(4)		・わたしたちの生活と環境☆A(1)	
算数											
理科	・物の燃え方と空気A(1)				・台風と天気の変化A(2)	・流れる水のはたらきA(1)C(2) ・大地のつくりと変化☆A(2)E(3)					
音楽				・希望の道F(2)							
図工											
家庭				・物の使い方を見直そう							・これからの家庭生活を見直そう☆B(4)
体育				・心の健康(副)	・着衣水泳B(1)	★防災人としての知識〜けがの手当〜☆B(3)					
道徳	・言葉にするまでの時間E(4)	・日常生活に生かすF(2)		・朝飯前のボランティア☆E(2)	・ふるさとの音F(3)		・おばあちゃんからもらった命☆E(2)		・あと30分おくれたら☆E(2)	・くじけないで最後まで☆E(1)	・この命のかがやきをE(3)F(4)
学級活動	・高学年としてE(4)	・地域の一人として☆F(3)	・家族防災会議を開こう☆C(1)	・落ち着いた行動を☆E(1)	・地域のリーダーとしてF(3)	・夏休みを有意義にF(3)		・家族とのつながり☆C(1)	・異学年と交流しようD(2)		
学校行事等	・避難経路の確認、登下校の安全B(1)	・非常時下校体制の確認、中学校区共通引渡しカード使用R(1)	・地震に備えてC(3)			・地域防災訓練(火災)☆					

3-(2) 単元配列表モデル 中学校【1年～3年】

☆仙台版防災教育副読本

1 ～ 3 元 モデル

4月 5月 6月 7月 8・9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

国語				・古典に残る災害を讀んでみよう☆A(3)	・震災文庫を作ろう☆E(3)					
社会		・身近な地域の歴史C(2)			・地方自治と私たち☆C(3)					
数学									・資料の整理、確率A(1)(2)	
理科								・大地の變化A(2)(3)B(4)		
音楽								・わかりやすく伝えるデザインF(1)		
美術			・文字や形で伝えるF(1)			・折りの形F(1)				
技術		・情報の信頼性B(2)				・住まいの安全対策、災害への備え☆C(1)				
家庭										
保健体育	・集団行動B(1)	・応急処置の方法☆	・心肺蘇生方法☆B(3)	・着衣水泳B(1) ・AEDの使い方☆B(3)						
英語					・道案内					
道徳	・一歩一歩力強く☆E(1)	・礼儀の大切さE(2)		・心に寄り添おう☆E(4)	・勤労の尊さ☆F(3)	・かけがえのない家族F(3)		・ともに育つ☆F(3)		・約束F(4)
学級活動	・防災知識をチェックしよう(副)		・防災クロスロードゲームD ★避難所開設時、中学生の私たちにできること☆C(2)F(3)	・夏季休業中の安全D ・災害発生時の対応☆B(1)D				★「復興への歩み」を語り継ごう☆E(4) ・災害時の安全な行動C(1)	・冬季休業中の生活D ★自分を守るD ・震災の教訓(2)	・春季休業中の生活D
学校行事等	・避難方法と避難経路の確認C(1)	・引き渡し訓練C(1)	・災害発生時の対応☆B(1)D		・避難訓練の意義☆C(1)					

4 幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申） 別紙

健康・安全・食に関わる資質・能力

- 健康・安全・食に関する資質・能力を、「知識・技能」，「思考力・判断力・表現力等」，「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿って整理すると，以下のようになると考えられる。

（知識・技能）

様々な健康課題，自然災害や事件・事故等の危険性，健康・安全で安心な社会づくりの意義を理解し，健康で安全な生活や健全な食生活を実現するために必要な知識や技能を身に付けていること。

（思考力・判断力・表現力等）

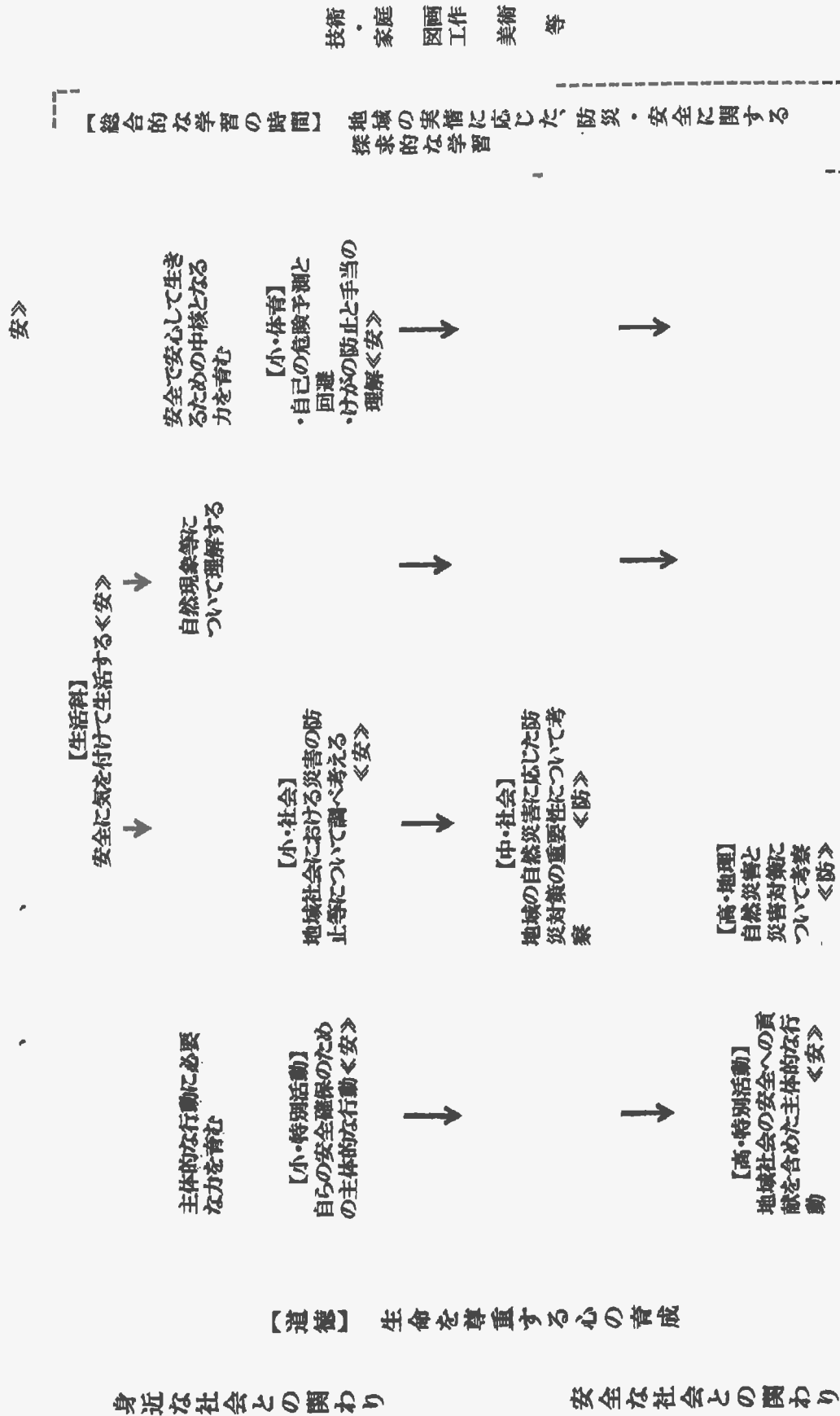
自らの健康や食，安全の状況を適切に評価するとともに，必要な情報を収集し，健康で安全な生活や健全な食生活を実現するために何が必要かを考え，適切に意思決定し，行動するために必要な力を身に付けていること。

（学びに向かう力・人間性等）

健康や食，安全に関する様々な課題に関心を持ち，主体的に，自他の健康で安全な生活や健全な食生活を実現しようとしたり，健康・安全で安心な社会づくりに貢献しようとしたりする態度を身に付けていること。

防災を含む安全に関する教育のイメージ

教科等横断的な視点から教育課程を編成



【出典】次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ 別紙(2) (文部科学省)

「仙台版防災教育実践ガイド」編集委員会

<アドバイザー>

東北大学災害科学国際研究所 教授 佐藤 健
東北工業大学 教授 小川 和久

<委員>

主幹教諭 飯田 毅 (仙台市立将監中学校)
主幹教諭 坂本 茂 (仙台市立長町中学校)
主幹教諭 桜井 泰実 (仙台市立五城中学校)
主幹教諭 菅野 宏一 (仙台市立高砂中学校)
主幹教諭 中川 美佳 (仙台市立七郷中学校)
教諭 亀崎 英治 (仙台市立七郷小学校)
教諭 千葉 千鶴 (仙台市立岩切小学校)
教諭 古元 智子 (仙台市立宮城野小学校)
教諭 渡邊 桂子 (仙台市立七北田小学校)

<協力>

教育センター 主任指導主事 大友 重明

<事務局>

教育指導課 課長 猪股 亮文
教育指導課 主幹兼教育課程係長 岩田 光世
教育指導課 主任指導主事 高橋 和之

【参考文献等】

- 「ともに、前へ」 （仙台市中学校長会，宮城教育大学教育復興支援センター制作
DVD）
- 「高砂中防災ノート」 （仙台市立高砂中学校）
- 仙台版防災教育副読本「3.11 から未来へ」 （仙台市教育センター）

平成29年3月 発行 仙台市教育局学校教育部教育指導課

